

淀川改修増補工事概要

緒言

淀川ハ源ヲ琵琶湖ニ發シ瀨田ノ奔流ヲナシテ江南ノ山峽ヲ過ギ山城ニ入りテ宇治ノ清流ヲ生ジ八幡山崎ノ地、桂、木津ノ二川ヲ合セテ汪洋攝河ノ平原ヲ貫流シ大阪灣ニ注グ、流域近畿七州ニ跨リ我國著名ノ大河ナリ、沿川ノ地、氣ハ和ク、地ハ沃エ、水豊ニシテ天惠地利多ク其比ヲ見ズ、文化ココニ開ケ、京阪ノ二都ヲ初メ都邑能ク發達シ比年人口ノ稠密、産業ノ振興ヲ見ツ、アルモノ亦淀川ノ利澤ニ負フトコロ鮮シトセザルナリ、然レドモ淀川ハ古來亦治水ノ難河トシテ知ラレ、水災頻發、濁流廣野ニ怒漲シ生靈ト財産トヲ流亡セシコト幾許ナルヲ知ラズ、既ニ紀元九百八十三年 仁德帝ハ茨田ノ堤ヲ築キ給ヒシニ見ルモ民生ノ水ニ苦シムコト久シキヲ知ルベシ、爾來一千數百歲、治水ノ業屢々起リシト雖モ成果ヲ擧グルニ至ラズ空シク濁水ニ委スルノ外ナカリキ、明治ノ聖代ニ入りテ政府亦本川改修ノ要ヲ認メ水源諸山ニ砂防工ヲ起シ、又河身ノ修築ヲ初メタリシモ未ダ治水ノ根本策ヲ確立スルニ至ラズ、斯クテ水化ノ進運ト共ニ水災ノ慘亦疇昔ノ比ニアラズ、彼ノ明治十八年枚方破堤ノ如キ其慘狀言語ニ絶スルモノアリタリ、茲ニ於テ淀川大改修ヲ叫ブノ聲愈々高ク政府亦其急務ナルヲ察シ故沖野工學博士等ヲシテ之

ガ調査計畫ヲナサシメ明治廿九年帝國議會ノ協賛ヲ經テ工費九百九萬餘圓ヲ以テ十ヶ年繼續事業トシテ根本的治水策ヲ實施スルニ至レリ、實ニ我國ニ於ケル近代の治水工事ノ濫觴トスベク之ガ爲河川法ノ制定ヲ要スルニ至リシト云ハル、爾來銳意工ヲ進メタルモ中途日露戰役其他ノ事由ニ依リ工期五ヶ年ヲ延長シ工費百萬圓ヲ追加シテ明治四十三年度其竣功ヲ見ルニ至リシナリ、洵ニ近代ノ偉業ニシテ其惠澤唯ニ地方ノ福祉ヲ増進セシニ止マラザリシナリ。

然ルニ大正六年十月一日稀有ノ大洪水ニ際會シ不幸ニシテ右岸三島郡大冠村字大塚及支川數ヶ所ニ破堤ヲ生ジ再ビ慘禍ヲ蒙リタルヲ以テ政府ハ之ガ増補ヲ急施スルノ要ヲ認メ大正七年以降六ヶ年ノ繼續事業トシテ工費五百九拾七萬圓ヲ以テ京都府伏見市觀月橋以下海ニ至ル區間ニ對シ淀川改修増補工事ヲ起工スルニ至レリ、其後歐洲戰亂、財政上ノ都合並ニ追加工事ニ依リ工期八ヶ年ヲ延長セラル、ト共ニ工費亦一千四百五十七萬餘圓ニ増額セラレタリ。

起工以來十有三年、幾多ノ障害、難工ト苦闘ヲ續ケ、今ヤ將ニ工ヲ竣ラントス、更生ノ淀川ハ茲ニ苗態ヲ改メテ巨堤蜿蜒十數里、將來之ガ愛護ノ徹底、水防ノ完備ヲ期スルト共ニ周到ナル維持ヲ怠ラズ以テ長ニ郷土ヲ護リ其福祉ヲ増進セシメント切望ニ不堪ナリ、左ニ工事ノ經過ヲ略述シテ記錄トセン。

河 狀

一、流域面積

淀川ノ流域ハ滋賀、京都、大阪、三重、奈良、兵庫ノ二府四縣ニ跨リ面積八千二十平方杆ニシテ之ヲ大別シテ次ノ四區域トス、其流域面積次表ノ如シ

流 域	流域面積 平方杆	全流域ニ對スル 百分率	國
琵琶湖 瀨田川	四二	%五	近江 山城
木 津 川	一六四	二〇	伊賀 大和 山城
桂 川	一四二	一四・二	丹波 山城
幹 川	八六四	一〇・八	攝津 河内
合 計	八〇一〇	100	

流域内耕地地ノ總面積ハ約十九萬八千ヘクタールニシテ内水害關係耕地地面積ハ左表ノ如シ

流 域	水害關係耕地地面積
琵琶湖沿岸	三七〇〇ヘクタール
山城平野	一五九〇〇

幹川流路ノ延長ハ湖口伏見間三十軒、伏見以下海口間四十六軒ニシテ合計七十六軒ナリ内伏見以下四十軒ノ區間ハ舟航ニ適ス

二、琵琶湖、瀬田川、宇治川

淀川全流域ノ過半ヲ占ムル近江ノ國ハ四周ニ比良、比叡、伊吹ノ山峰重疊シ恰モ障壁ヲ遶ラセルガ如ク内ニ琵琶湖ヲ抱擁セリ、湖ノ面積六百八十五平方軒ニ及ビ其宏大ナル貯水力ハ洪水ノ調節ト平水ノ供給トニ偉大ノ貢獻ヲナシツ、アルモノニシテ沿湖並ニ下流地方ノ發達ハ之ガ惠澤ニ依ラザルハナシ、湖面ノ高サハ常水ニ於テ海拔凡八十七米ニシテ湖ノ深度最深九十米ニ及ブ處アリ、湖岸ハ多ク平坦ナル沖積地ヲナシ殊ニ東岸ハ平野連互セリ湖ノ南端瀬田ニ疏口アリ瀬田川トナス、湖南ノ勝地トシテ廣ク知ラレタリ、往年淀川改良工事ニ於テ之ガ浚渫改修ヲ加ヘ大ニ快疏ヲ計ルト共ニ南郷ニ洗堰ヲ設ケテ湖ノ流出ヲ調節セリ、洗堰ヲ流下セル瀬田ノ清流ハ堰ノ下流左岸ニ於テ甲賀ヨリ流下セル大戸川ヲ合セ關ノ津以下山間ヲ瑩回シ河幅漸ク狹ク流勢飛岩ニ激シテ鹿飛米磨ノ勝地ヲ生ム、疏口ヨリ凡十三軒ニシテ曾束ヲ過ギ山城ニ入り宇治川ト稱セラル是ヨリ大峰ニ至ル區間ハ宇治川水力電氣宇治堰堤ノ脊水ノ影響ヲ受ケ平靜鏡ノ如ク巒峰倒影シ亦昔日ノ奔湍ヲ見ズ、堰堤ヲ下リ宇治ニ至リ初メテ山峽ヲ出ヅ疏口ヲ去ル凡二

三軒、川幅漸ク廣ク激流亦勢ヲ失ヒ水明掬スベシ、宇治ヨリ伏見ニ至ル凡六軒ノ間ハ河流漸ク緩ニシテ舟楫ノ便初メテ開ケ左岸ハ長堤連互シ巨椋池一圓ノ平野ヲ圍ミ右岸ハ多ク無堤ニシテ堀内ニ於テ山科川ヲ合ス、伏見以下ハ往年淀川改良工事ニ於テ改修ヲ加ヘタルモノニシテ觀月橋以下左岸堤防ヲ連結築設シテ巨椋池ヲ分離シ亦淀以下ニ新宇治川ヲ開鑿シテ桂川ヨリ分流セシメタリ、右岸伏見市ハ高瀬川及京都市疏水運河ニ貫流セラレ古來水運ノ要衝トシテ發達セルモ洪水ニ暴露シ年々水災ニ苦シムコト甚シク而モ未ダ防水ノ策ヲ講ゼラル、ニ至ラズ。

伏見以下宇治川ノ勾配ハ低水ニ於テ三千分ノ一以下ノ緩流ニシテ水深ニ富ミ舟航ニ適ス、低水路ノ幅員ハ凡九〇米乃至八〇米ニシテ堤防間隔ハ新宇治川ヲ除キ廣狹一定セズ中ニ横大路月貫、金井戸ノ廣大ナル中島ヲ抱擁セリ、新宇治川ノ幅員ハ凡二七〇米ニ一定セリ。

三、木津川

木津川ノ上流ハ二派ニ分レ伊賀川及名張川トス。

伊賀川ハ伊勢伊賀國境山脈西麓ノ諸水ヲ集メ三重縣阿山、名賀兩郡ノ山間ヲ縫流シテ上野ノ盆地ニ流集シ西ニ流レテ京都府相樂郡ニ入ル、名張川ハ奈良縣宇陀郡南境ノ山脈ニ源ヲ發シ或ハ飛瀑トナリ或ハ峽流ヲナシ溪谷ヲ瑩回シテ名張町ニ流集シ北ニ流レテ大河原ノ上流ニ於テ伊賀川ニ合流ス、初メテ木津川ノ名アリ、大河原ヲ過ギテヨリ笠置ノ峽谷ヲ流下スルコト凡十二軒、大和添上山城相樂ノ諸水ヲ入レテ

加茂ニ達ス、初メテ堤塘ヲ見ルベク猫額ノ盆地ヲ圍ム、是ヨリ流下凡三籽ニシテ再ビ瓶原ノ峽谷ニ狹メラル、コト凡四籽、木津町ニ入りテ全ク山間ヲ出デ狹長ナル平野初メテ展開ス、川幅亦漸ク廣ク五五〇米乃至八〇〇米ニ及ブ、木津ヨリ流向亦北ニ轉ジ堤防屈曲連互セリ、川床砂礫ニ埋レテ河身亂流常ナク玉水ヲ過ギテ流向西北ニ轉ジ八幡町地先ニ於テ淀川本流ニ合ス木津ヲ距ル凡二十一籽ナリ。

四、桂川

桂川ハ近江丹波ノ國境山脈ノ中大悲山麓ニ源ヲ發シ京都府北桑田郡内ノ諸水ヲ入レ山間ヲ曲流シテ西ニ流レ殿田ニ於テ流向ヲ南ニ轉ジ園部町ノ東南鳥羽ニ於テ園部川ヲ合セ龜岡ノ盆地ニ入ル大堰川ノ名アリ是ヨリ流向東南ニ偏シ龜岡ヲ過ギテヨリ保津川ノ峽流ヲナシ奔流奇巖ニ激シテ飛下スルコト凡九籽清瀧川ヲ合セテ嵯峨ニ至リ嵐峽ノ清趣ヲ殘シテ洛西ノ平野ニ出ヅ初メテ桂川ノ名アリ、是ヨリ流勢漸ク衰ヘ川幅亦廣ク河床砂礫ニシテ堤防連續ス羽束師ニ於テ洛西ノ諸水ヲ集ムル鴨川ヲ合セ流向ヲ西南ニ轉ジ淀町ノ北ヲ過ギ天王山麓山崎ニ於テ本流ニ合ス、納所以下ハ先年淀川改良工事ニ於テ改修ヲ加ヘタルモノニシテ就中水垂ノ狹窄箇所ヲ開鑿セルハ上流洪水ノ害ヲ輕減シ其効最モ顯ハル、是ノ間河流鈍流ニシテ舟楫ノ便開ケ右岸ニ乙訓ノ諸水ヲ集ムル小泉、小畑ノ二支川ヲ合ス。

五、淀川本流

八幡山崎ノ地、西ハ天王山麓東ハ男山ノ山裾相對峙シ幅員凡九〇〇米ヲ出デズ、宇治、木津、桂ノ三川是處ニ集流シテ淀川トナリ攝河ノ平野ニ出デ左岸ニ舟橋、穗谷、天野ノ三川ヲ入レ右岸ニ水無瀬、檜尾芥ノ三流ヲ合セ枚方、八雲、毛馬ノ三大彎曲箇所ヲ除キテハ概ネ流向ヲ西南ニトリテ攝河ノ國境ヲ辿リ大阪市東淀川區江口町ニ於テ右岸ニ神崎川ヲ分派シ、毛馬町ニ於テ左岸ニ舊淀川ヲ分疏シ以下常吉町ニ至ルノ間延長凡十籽新淀川ハ直路汪洋トシテ大阪灣ニ注グ、三川合流ヨリ凡三十五籽七ナリ、河流緩ニシテ舟航ニ適シ河水豊富ニシテ灌漑ノ利大ナリ、川床ハ概ネ粗砂ヨリナリ堤塘蜿蜒連互シ攝河ノ沃野ヲ護ル、川幅ハ八幡町地先ニ於テ凡七五〇米新淀川流頭凡七二〇米河口凡八二〇米ニシテ支川合流箇所ヲ除キテハ概ネ五五〇米乃至八〇〇米トス。

本川區域ハ先ニ明治七年淀川低水工事ニヨリ河身ニ改修ヲ加ヘラレタル外明治廿九年淀川改良工事ニ依リ高水防禦工事ヲ施工セラレ川幅ノ擴張、堤防ノ增高、護岸ノ修築ヲナスト共ニ右岸ニ神崎川ヲ締切リ左岸ニ舊淀川ヲ遮斷シ洪水ノ流入ヲ斷ツト共ニ洪水時沿岸一帶ノ排水ヲ良好ナラシメ水腐ヲ免レシムルト共ニ水門並ニ洗堰ヲ設置シテ常時河水ヲ引用シ利用ノ途ヲ絶ツコトナカラシメ亦新ニ新淀川ヲ開鑿シテ洪水ノ放流ニ備ヘタル如キ淀川ハ空前ノ大改革ヲ加ヘラレテ地方産業ノ開發ニ資スルモノ大ナリキ。既往調査ノ結果ニ依レバ洪水ノ最大流量ハ每秒宇治川八三五立米、木津川四六五〇立米、桂川一九五〇立米、本流五五六〇立米ニシテ低水流量ハ平均低水位ニ於テ一九五立米如何ナル渇水時ト雖モ八三立米ヲ下ラズ、但シ渇水ノ大部ハ宇治川ヨリ來リ琵琶湖調節ニ基クモノトス。

洪水ノ被害

一、琵琶湖ノ水害

琵琶湖沿岸ノ水害ハ湖面ノ上昇並ニ浸水期ノ長大ナルニ基クモノニシテ明治十八年七月四日ノ如キハ鳥居川標二・七一米全廿九年九月十二日ハ實ニ三・七六米ヲ示シ之ヲ當時ノ常水七一糎及七三糎ニ比スル時ハ殆ド二米乃至三米ノ昇騰ヲ來シタルモノニシテ耕宅地ノ水底ニ没スルモノ夥シク明治廿九年ノ如キ凡二萬町歩ニ及ビ而モ常水ニ復スルニ百六十餘日ヲ要シタリト云ハレ、農産其他ノ損失莫大ナルモノアリタリ。

其後淀川改良工事ニ於テ瀬田川ニ改修ヲ加ヘテ湖水ノ疏通ヲ快クシ且ツ洗堰ヲ設ケテ其流出ヲ調節スルニ至リシヲ以テ爾來沿湖ノ水災ハ甚シク輕減セラレ大正六年十月ノ大洪水ニ於テモ湖ノ昇騰一・二米ニ達シタルノミ之ヲ往年ノ水災ニ比スレバ除害ノ効偉大ナルヲ窺フニ足ラン、然レドモ本湖ノ調節ノ如キ天意ヲ測リテ之ニ備フルヲ要シ一度其機ヲ誤ランカ沿湖ノ水災ハ勿論下流ニ及ボス影響甚大ニシテ事ニ當ルモノ周到ノ洞察ト慎重ナル判定ニヨリ最善ノ努力ヲ拂ヒツ、アルモノ蓋シ故ナシトセズ。

二、淀川本流ノ水害

下流平野ニ於ケル水害ハ破堤ニ基クモノ及惡水滯溜ニ依ルモノニシテ就中破堤ノ慘害ハ言語ニ絶スルモノアリ。

淀川流域ハ地域廣大ニシテ同一低氣壓圈ニ蓋ハル、コト稀ニシテ本流ニ大暴漲ヲ齎スモノハ木津川流域ノ暴風雨ニ依ルモノ多シ、宇治桂ノ兩川亦木津ノ暴流ニ阻マレテ水位ノ昇騰ヲ來タシ冠水決堤ノ慘ヲ見ザルナシ、伏見市ノ如キハ其樞區濁水ニ横流セラレ水災ニ惱ムコト久シ、淀川本流ト雖モ亦屢々破堤ノ慘ヲ繰リ返シ而モ地勢平坦ニシテ一度溺没スレバ其慘禍測リ知ルベカラズ。

今明治以降ニ於ケル大洪水ヲ數フルニ全元年、十八年、二十二年、二十九年、三十六年、四十年、大正元年、全六年、七年、十年、昭和五年ノ十回ニ及ビ就中慘害ノ甚シカリシモノ明治十八年、大正六年ノ二回トス、何レモ本支流堤防ノ破堤ヲ生ジ濁水横溢、慘害凄絶ヲ極メタリ、明治四十三年以降大正八年ニ至ル十ケ年平均水害直接損失額百九萬二千餘圓ニ上リ内大正六年六百四十六萬九千餘圓ニシテ其他間接ノ損害ニ至リテハ計數ヲ以テ測リ知ル可カラザルモノアリ、破堤ノ慘害如斯ク洵ニ之ガ除害ノ策ヲ講ズル事一日モ忽諸ニ付スベキニアラズ、是ヲ以テ先ニ淀川改良工事ヲ施工シテ治水ノ根本定マリ大ニ其成果ヲ上グルヲ得タルモ尙破堤ノ脅威ニ對シテハ更ニ之ヲ増補スルノ要アリ、茲ニ淀川改修増補工事ノ起工ヲ見ルニ至リタルナリ。

惡水滯溜ノ害ニ至リテハ其激甚之ニ及バザルモノアルモ而モ中小ノ洪水ト雖モ其被害ヲ蒙ラザルハナシ、是レ本流沿川平野ハモト海灣ノ跡ニシテ地勢平坦而モ惡水ノ排除ハ本流又ハ派川ニ放出セザルベカラ

ザルヲ以テ本流水位ノ上昇ハ之ヲ阻止シ湛水長キハ旬日ニ及ブモノアリ、稻田水腐シ農作ノ害僅少ニアラズ、先年淀川改良工事ヲ施工シテ新淀川ヲ開鑿スルト共ニ淀川本流ヲ毛馬ニ於テ縮切り又右岸神崎川ヲ閉鎖シ左右岸一帯ノ排水ヲ良好ナラシメタルノ効偉大トスベク其他巨椋池ノ遮斷新宇治川ノ付替等沿川排水ニ良果ヲ收メタルモノ尠カラズ、而モ近年器械ノ發達ト農村ノ覺醒ニヨリ排水唧筒ノ設置サル、モノ比年其數ヲ加ヘ以テ自然排水ノ及バザルヲ補ヒツ・アリ、遠カラズ沿川悪水ノ被害ハ著シク輕減サル、モノアラシ、現在排水機ヲ設置セルモノ十一ヶ所ニシテ伏見、横大路、羽束師、御牧、美豆、八幡、大山崎、五領、全今戸、牧野磯島トス。

淀川改良工事概要

既ニ述ベタルガ如ク淀川改修増補工事ハ先ニ施工セル淀川改良工事ト密接ノ關係ニアリ茲ニ其概要ヲ適記スルコト、セリ。

淀川改良工事ハ琵琶湖、山城、攝河ノ水災ヲ防止スベキ高水防禦ノ目的ヲ以テ計畫セラレ明治廿九年議會ノ協賛ヲ經テ起工シ同四十三年其竣功ヲ見タルモノニシテ工費一千九萬四千圓ヲ要シタリ。

計畫最大流量ハ宇治川毎秒八百三十五立米、瀬田川六百九十四立米、桂川千九百五十立米、木津川三千六百十立米トシ三川合流後ハ各川最大流量ノ同時流集スルコトナキヲ考慮シ最大流量ヲ五千五百六十立

米ト定メタリ。

一、瀬田川改修工事

琵琶湖ノ水災ハ湖面ノ昇騰ニ基因スルモノナルヲ以テ其疏口瀬田川ヲ浚渫シテ其快疏ヲ計ルト共ニ湖ノ流出ヲ調節スルノ目的ヲ以テ南郷ニ洗堰ヲ設置セリ、計畫川幅ハ百八米トシ水深常水位以下二・七米ニ浚渫シ最大流量ヲ疏通シ得ルモノトセリ、改修延長凡五・四軒ニ亘ル、瀬田川洗堰ハ水通巾三・六米三十二連ノ角落堰ヨリナレリ。

二、宇治川桂川改修工事

宇治川筋ノ主要ナル工事ハ新宇治川ノ開鑿及巨椋池ノ遮斷トス、宇治川ハモト淀町ノ北ヲ回リテ納所村ニ出デ桂川ニ合流シタリシガ新ニ新宇治川ヲ開鑿シテ桂川ヨリ分流セシメ淀町ノ西南ヲ過ギ八幡町地先ニ導流シテ木津川ニ合セシメタリ。

巨椋池ハモト宇治川ト通ジ洪水ニ際シテハ貯水ノ作用ヲナセルモ其効果微弱ニシテ其害大ナルモノアリ貯水ノ作用ハ宏大ナル琵琶湖ニ讓リテ之ヲ遮斷シ沿岸水災ヲ除クニ決シ新宇治川左岸堤ニヨリ之ヲ兼行セシメタリ而シテ其排水路ヲ新堤ニ沿ヒ開鑿シ宇治木津合流点ニ近ク新ニ水門ヲ築設シテ宇治川ニ排除スルモノトセリ。

新宇治川ノ幅員ハ二七〇米トシ中央ニ巾九〇米ノ低水路ヲ設ケ是ノ付換延長四千七百五十餘米ニ及ブ、

更ニ其左岸堤ハ九百米ヲ延長シテ桂川トノ脊割堤ヲラシメタリ、宇治川筋舊堤ノ擴張ヲ施工セルハ左岸觀月橋以下右岸高瀬川合流以下新宇治川ニ至ルノ區域トス。

桂川筋ニ於テハ納所水垂地先舊宇治川合流口附近川幅狹窄箇所ノ擴張並ニ掘鑿ヲ行ヒ上流洪水ノ害ヲ輕減スルト共ニ左岸新宇治川脊割堤ニ至ル延長三千餘米ノ新堤ヲ築設セリ又右岸ハ大山崎地内ニ於テ引堤延長二千四百六十餘米ヲ施工シテ所要ノ河積ヲ得セシメタリ。

三、淀川本流改修工事

橋本以下毛馬ニ至ル本流工事ハ主トシテ舊堤ノ擴張ヲナスト共ニ中島ノ掘鑿ヲ施工シ又川巾狹小ナル大塚、出口、赤川等ニ於テハ引堤ヲナシテ其擴張ヲ計リ守口、大道附近河道屈曲甚シキ箇所ハ其一部ヲ付換ヘタリ、神崎川ハ之ヲ締切り水門ヲ設置スルニ止メ、毛馬地先ニ於テハ淀川本流ヲ遮斷シテ大阪市ヲ洪水ノ漲流ヨリ救ヒ流頭ニ毛馬閘門洗堰ヲ設ケテ平水ノ引用、舟航ノ連絡ヲ計リタリ、而シテ洪水ノ放流ニ對シテハ新ニ海ニ達スル延長凡九・七粍ノ新淀川ヲ開鑿セリ、其幅員流頭ニ於テ七百二十餘米海口八百餘米ナリ。

以上淀川改良工事ニ於テ施工セル新堤並ニ舊堤ノ擴張ニ規準トセシ堤防断面ハ馬踏五・五米兩法二割トシ計畫高水面上〇・九米ノ餘裕ヲ保ツモノトセリ。

淀川下流改修工事概要

淀川ニハ前記淀川改修工事ヲ施工セラレタル外其前後ニ亘リ多年低水工事ヲ施コシタリ今左ニ其概要ヲ述ヘントス。

淀川ノ低水工事ハ京都府伏見市觀月橋以下大阪安治川海口ニ至ル間ヲ低水時一・五米ノ水深ヲ保タシムルノ目的ヲ以テ明治八年起工シ明治二十一年度迄ニ守口以上觀月橋間ノ工事ヲ竣成シタルニ先是大阪築港ノ計畫屢々起リ其計畫ノ如何ハ守口以下ノ低水工事ノ計畫ニ至大ノ關係アルヲ以テ二十一年度限り一時中止シ二十二年度ヨリ既成水制修繕工ノ續行ニ止メ明治二十九年迄ニ至リ淀川改良工事ヲ起工セラレ其範圍ニ於テ低水補修工事ヲ併セ施工中ノ處明治三十九年第二十三回帝國議會ノ協賛ヲ經淀川下流改修工事ノ名ニ於テ大阪府北河内郡樟葉村以下安治川口ニ至ル約四三粍間ヲ工費三百萬圓ヲ以テ明治四十年度ヨリ大正七年度ニ至ル十二ヶ年繼續事業トシテ低水工事ヲ施工スルコト、ナリタルカ偶々歐洲大戰ノ影響ヲ受ケタルト追加工事施設ノ要アリタル爲メ二回ニ亘リ工費七十五萬五千圓ヲ増額シ又施行年限ヲ大正十一年度迄四ヶ年ヲ延長セラレタリ。

一、下流改修工事施行ノ大要

淀川筋木津、桂、宇治ノ三川合流後ノ低水流量ハ約一六七立方米ニシテ内二八・立方厘米ハ神崎川ニ分流

セラル、ヲ以テ守口、毛馬間ノ低水流量ヲ一三九立方メートル想定シ低水幅員ヲ一二七メートルシ〇・九米ノ水深ヲ保タシムルヲ目的トシ樟葉村以下毛馬ニ至ル區間ニ於テハ制水工ヲ新設セル箇所アルモ主トシテ補修工ヲ施シ尙淺游ノ箇所ハ浚濬ヲ行ヒタリ又舊淀川ハ毛馬洗堰ヨリ流下スル渇水時ノ流量ヲ一一一立方メートル定メ川幅ハ大川ニ於テ九一米土佐堀川筋ヲ四六米堂島川ヲ六四米ト定メ土佐堀川ハ淀屋橋堂島川ハ大江橋ヨリ上流ノ兩岸ニ護岸ヲ築設シ河狀ノ整齊ヲ圖ルト共ニ航路ヲ浚濬シ水深一・五米ヲ保タシム又安治川筋ハ上流ニ於テ最小七三米海口附近ニ於テ最大二七三米ノ河幅ヲ有スルモ水深ハ干潮以下約三・米ニ充タザル處アリテ五百噸級以上ノ船舶ハ荷物ヲ減載セザレバ出入シ得ザル狀況ナリシモ此端建藏橋以下海口ニ至ル約五・四五五米ノ河筋ハ一般荷役ニ適スルヲ以テ此區間ヲ幅五五米乃至約一四五米最底干潮位以下六米ニ浚濬シ以テ内海航路汽船ノ通航及接岸ニ便ナラシム、然ルニ右浚濬工事進捗ニ伴ヒ舊淀川筋ノ水位著シク低落セシヲ以テ原計畫ニハ安治川頭部ニ堰堤ヲ設ケ水位ノ低下ヲ防止スル豫定ナリシモ船舶通航上ノ不便ヲ考慮シ之レヲ廢シ毛馬第一閘門ノ下手ニ幅一一米有効長一〇九米ノ毛馬第二閘門ヲ新設スルコトニ變更セリ、又長柄運河ハ元淀川改修工事中掘鑿土運搬ノ爲メニ設ケタルモノナレトモ之ヲ永久的施設トシ沿岸工場地帯ノ發展ニ資スル必要上其護岸ヲ補修シ川床ヲ浚濬シ且鼠島ノ南方締切ニ長一〇米巾三・六米ノ洗堰並ニサイホンヲ新設セリ、又新淀川長柄橋下流ニ低水路幅一二二米ニ起伏堰及魚道ヲ新設シ渇水時ニ舊淀川ニ注入スベキ流量ノ調節ヲ計リ更ニ傳法川及六軒屋川ニ既設閘門ニ併行シテ各第二閘門ヲ増設スルコト、セリ。

二、竣功後ノ効果

上記ノ各工事竣功ノ結果安治川筋ハ以前辛フシテ五百噸級汽船ノ出入ニ過キサリシモ今ヤ二千噸級ノモノ出入自由トナリ、又舊淀川筋ハ昔時淺游多クシテ僅カニ〇・七米ノ吃水ニモ往々支障ヲ感シタルニ浚濬後ハ充分其目的ヲ達シ吃水一・五米ノ舟船ハ潮ノ干満ニ拘ハラス航行自由トナリシノミナラズ兩岸ニハ護岸ヲ作り法線外ヲ埋立テ因テ生シタル地所ヲ物揚場、舟溜場等ノ用ニ供シ或ハ公園ニ利用スル等市民ノ利益ト衛生娛樂トニ益スルコト大ナルモノアリ、毛馬ヨリ上流低水路整理ノ効果亦良好ニシテ甚シキ渇水時ニ非ラサル限り豫定ノ水深ヲ維持スルヲ得航路改良ハ所期ノ目的ヲ達スルコトヲ得タリ、又長柄運河補修ハ六軒屋及傳法閘門ノ増設ト相俟テ舟行ノ利便増大シ沿岸一帯ノ開發ニ貢獻シタルコト多大ナリト云フベシ、

淀川下流改修工事竣功工費表

費目		工費
浚濬費		六七五、三九〇、五六六
沈床費		五二二、〇九一、三三五
護岸費		三二七、六四〇、九二二

堰	費	一六九、三三、七〇一
閘門	費	五八五、二八八、二八
洗堰	費	二七、五〇五、〇九三
長柄運河補修費		二四四、三〇〇、六七五
用地費		一、二九一、六八〇
船舶及機械費		八六四、〇三四、七二〇五
施工中諸費		三四二、七五九、六九八
合計		三、七三九、五六六、五二七五

淀川改修増補工事計畫概要

淀川改修増補工事ハ大正六年十月大洪水ノ慘害ニ鑑ミ京都府伏見市觀月橋以下海ニ至ル全川ニ對シ改修増補ヲ加ヘタルモノニシテ其改修幹川延長四十六軒餘ニ及ブ其主要ナル工事ヲ大別スレバ左ノ如シ。

- 一、幹支川堤防ノ擴築
- 二、中洲ノ掘鑿
- 三、伏見浸水防止
- 四、三川合流付替

既ニ淀川改良工事ニ於テ河道ノ匡正河幅ノ擴張放水路ノ開鑿、派川ノ締切等主要ナル改修ノ大工事ヲ完了シ大体ニ於テ改修ノ基本ニ觸ル、ノ要鈔ナク前記第一、第二ノ工事ヲ施工シテ淀川改良工事ノ目的トスル効果ヲ確保スルト共ニ新ニ第三、第四ノ諸工事ヲ起シテ治水ノ完璧ヲ計ラントスルモノナリ。

計畫最大流量ハ既往調査ノ結果宇治川毎秒八百三十五立米、木津川四千六百五十立米、桂川千九百五十立米トシ三川合流以下淀川本流五千五百六十立米ト定メタリ。

一、幹支川堤防擴築

堤防擴築ノ高サハ幹川ニ於テ計畫洪水位上一・五米トシ宇治川筋ニ於テハ三川合流付換ノ影響ヲ考慮シ之ヲ一・二米トセリ、堤防標準斷面ハ馬踏五・五米、表法二割ニシテ洪水位下三米ニ巾九米ノ表小段ヲ設ケ、裏法ハ洪水位下〇・六米迄二割トシ以下二割五分トス、第一裏小段ハ洪水位下〇・六米第二小段ハ全三・三米ノ箇所ニ設ケ何レモ幅員三・六米トセリ、但シ地質地形ニ應ジ小段ニ多少ノ變更ヲナスモノトス。

擴築ハ主トシテ表腹付ニ依リタルモ地形其他ノ關係ニヨリ之ヲ許サザルモノハ裏腹付ヲナスモノトス。

支川破堤ノ被害ハ程度必ズシモ本流堤防ニ讓ラザルノミナラズ亦本堤破壞ヲ誘起スルコトナシトセザルヲ以テ本工事ニ於テハ本流洪水波及ノ程度ヲ限度トシ左記支川ニ對シ本流堤防ニ準ジ其擴築ヲナスコトセリ。

船 橋 川	〇、貳軒
穗 谷 川	〇、〇
天 ノ 川	一、二兩
芥 川	一、六二
檜 尾 川	一、三〇
水 無 瀬 川	〇、三三

二、中洲掘鑿

本流堤外地ニ存スル民有地ハ河川ノ整理上全部之ヲ買收シ洪水ノ疏通ヲ害スベキ寄洲ヲ鋤取り掘鑿土ハ築堤ニ利用スルモノトス、切下ゲノ高ハ平均低水位上〇・三米ヲ標準トセリ。

三、伏見浸水防止

伏見市ハ南ニ宇治川ニ臨ミ北ヨリ京都市疏水及高瀬川ノ水ヲ受ケ古來無堤ニシテ洪水ニ暴露シ之ガ防水工事ハ簡易ナル施工ノ能ク成シ能ハザルトコロニシテ逐ニ今日ニ至ル迄放置セラル、ノ有様ナリ、而モ逐年市ノ發達ハ之ガ放任ヲ許サルモノアリ本工事ニ於テ防水ノ根本策ヲ講ゼントス。

宇治川ヨリスル洪水ノ浸入ハ觀月橋以下三栖ニ至ル新堤ノ築設ニヨリ之ヲ防止シ得ベク、高瀬川ノ水ハ新ニ市ノ西郊ニ河道ヲ開鑿シテ宇治川ニ放流シ得ベシ、疏水ハ市ノ北端ニ於テ洪水位上凡十二米餘ノ落

差ヲ有シ毎秒二十二立方米ノ水ヲ送リテ發電シ其放水ハ市ヲ南ニ貫流シテ三栖ニ於テ宇治川ニ合セリ故ニ洪水ニ際シテハ之ヲ市外ニ放流スルノ要アリ之ガ爲メ上記發電所下游現水路ニ新ニ制水門ヲ設クルト

共ニ其上流ヨリ分岐シテ新高瀬川ト連絡スベキ放水路ノ開鑿ヲ要スベシ、常時ニ於ケル疏水ノ水ハ舟揖ニ衛生ニ、産業ニ其利用廣範ニ亘ルモノアルヲ以テ之ヲ在來水路ニ導キ其利用ヲ絶ツコトナカラシム、之ガ爲メ其流末三栖ニ於テ水門、並ニ閘門ヲ設置シ宇治川ニ連絡セシムルコト、セリ。

高瀬川ハ宇治川洪水ノ波及スベキ竹田城南宮街道以下凡三・二軒ニ互リ改修並ニ付替ヲ行フモノニシテ上流ハ舊堤ノ擴築ヲナシ疏水合流後延長凡一二六〇米ハ在來左岸堤ヲ右岸堤ニ擴築利用シ以下凡九〇〇米ハ新川ヲ開鑿スルモノトス。

四、三川合流付替

宇治川ノ洪水位ハ木津川ノ出水ニ支配セラル、モノ多キヲ以テ兩川合流点ヲ下流ニ移シ以テ其影響ヲ輕減シ併而勢流ヲ馴導センガ爲メニ宇治木津隔流堤延長千三百八十米ヲ築造スルモノトス。

宇治桂兩川ハ之ヲ合流セシムルモ支障輕微ナリト認メラル、ヲ以テ現隔流堤ハ其上部ヲ開鑿除却シテ新ニ宇治川ヲ通ジ桂川敷内ニ移ス、只桂宇治兩川ハ低水位上凡一・八米ノ脊割堤ヲ新設シテ兩低水路ヲ隔絶スルモノトス、脊割堤ハ幅三十六米ニシテ延長二千十米ニ及ブ、桂川ハ其河敷内ニ宇治川ヲ收容スルノ結果之ヲ山崎側ニ後退セシムルノ要アリ、之ガ爲メ其右岸堤防ハ外島地先現堤屈曲点ヲ起点トシ下流

水無瀬川合流点ニ至ル延長凡一九〇〇米ノ引堤ヲナスモノトス。
三川合流ケ所ニ於ケル川幅ハ木津宇治間四百五米、宇治桂間三百五十米ニシテ新低水路巾ハ宇治川凡九十米、桂川五十五米ナリ。

工 費 豫 算

本工事ハ大正七年工費總額五百九拾七萬圓ヲ以テ六ケ年繼續工事トシテ起工セルモ歐洲戰亂ノ影響ヲ受ケ物價勞銀ノ暴騰ノ爲メ大正十二年度ニ於テ施工年限ヲ大正十五年度三ケ年延長セラル、ト共ニ工費ヲ一千二百一萬三千五十一圓ニ増額セラレタリ、後更ニ財政上ノ都合ニ依リ大正十四年度以降年割額ヲ變更シ施工年限ヲ一ケ年延長セラレ昭和二年度竣功ノ豫定ヲ以テ工事中ノトコロ尙追加施工ノ必要ヲ生ジ昭和三年五月工費二百五十五萬七千圓ヲ増額シ施工年限ヲ三ケ年延長シ工費一千四百五十七萬五十一圓ニ増額セラレ昭和五年度竣功ノコトニ定メラレタルモ昭和四年度更ニ財政上ノ都合ニ依リ年割額ノ減額繰延ヲ受ケ竣功年度ヲ昭和六年度ニ改メラレタリ。
工費ノ内譯左ノ如シ

總工費 一千四百五十七萬五十一圓

内 譯

一千十七萬六千五十二圓	國庫支辨
四百三十九萬三千九百九十九圓	地方費負擔

施 工 狀 況

一、工 事 概 況

本工事ハ大正七年五月一日調査測量ヲ開始シ改修區域全般ニ亘ル高低並ニ平面測量及流量ノ觀測、地質ノ調査ヲ行ヒ全八年二月十五日完了セリ。

大正八年二月一日大阪府北河内郡枚方町ニ改修工區事務所ヲ開設シ人員機械ノ整備ヲ計ルト共ニ工事實施ニ着手セリ。

施工ノ方針ハ大正六年十月洪水ニ際シ損壞ヲ生ジタル箇所及漏水噴水ノ著シキ所其脆弱ト認メラル、區域ニ對シ先ヅ以テ工ヲ進メ順次他ニ及ボスコト、セリ、是等水上不安ノ部分ニ對シテハ先ヅ表小段上
○・九米迄ノ堤防擴築ヲ完成スルト共ニ流水ノ激衝ヲ受クル所滲透水ノ著シキ箇所ニハ表並ニ裏護岸ヲ施工シテ堤脚ノ安固ヲ計リ右第一段築堤ノ沈定ヲ俟テテ上部築堤ノ完成ヲ計ルモノトセリ。

工事着手ニ際シテハ時恰モ歐洲戰亂ノ影響ヲ受ケ物價勞銀暴騰シ且ツ勞働者拂底シ所期ノ工程ヲ舉グルノ至難ナルモノアリシヲ以テ可及的人力ノ節約ヲ計リテ機械ニ依ルノ方針ヲ定メタリ、然ルニ時局ノ影

響ヲ受ケテ機械ノ整備亦容易ニアラズ、大正八年度末ニ於テハ未ダ輕便トロニ依ルノ外ナク掘鑿機其他ノ調達ニ意ヲ注ギ大正九年度ニ於テ初メテ一台ノ掘鑿機ヲ運轉スルコトヲ得タリ、次デ十一年度末迄ニ掘鑿機二台、二十噸汽關車三台ヲ加ヘ其他浚渫船、小型機關車等土工器械稍整備シ工程漸ク順調ニ進ムルヲ得タリ、是等機械ノ修理ハ光立寺機械工場ニ依ルノ外大正十年九月枚方ニ其派遣所ヲ設置シ諸般ノ修理ニ當ラシメタリ。

工事施工ノ組織ハ工區事務所ニ工場及見張所ヲ直屬セシメ工事ヲ分擔セシメタリ、大正八年二月九ク莊枚方、三ヶ牧ノ見張所ヲ設置セルヲ初メトシ爾來工事ノ進展ト共ニ其數ヲ増シ大正十三年度ニハ工場八見張所十七ヶ所ニ及ビ人員亦漸次増員セリ。

工事着手ハ大正八年枚方三ヶ牧方面ヲ第一トシ五領大冠樟葉八幡庭窪等之ニ次ギ、牧野、鳥飼豊里方面ニ及ボシ十一年度宇治川筋伏見方面ヲ加ヘ十四年度新淀川方面、十五年度三川合流方面、最後ニ長柄毛馬方面ニ及ビタリ、即チ工期ノ前半ハ本工事ノ主要目的タル堤防擴築並ニ掘鑿工事ニ主力ヲ注ギ後半ニ入リテ伏見防水工事、三川合流工事ヲ施工シ其他殘餘ノ築堤特殊、附帶工事ヲ進工セシメタリ。今各方面ニツキ工事經過ノ概要ヲ適記スレバ左ノ如シ。

伏見向島方面

是ノ方面ノ主要ナル工事ハ伏見新堤並ニ兩岸舊堤ノ擴築、護岸、平戸川ノ締切及水門、高瀬川ノ付換並ニ之ニ依リテ生ズル道路、軌道橋用惡水樋管ノ新設、京都市疏水放水路ノ開鑿、及ビ在來高瀬川合流口ニ設クベキ三栖洗堰及閘門工事等トス。

大正十一年六月伏見新堤工事ニ着手シ第八ポンプ浚渫船(一時間三十立米掘)ヲ使用シ宇治川々底ノ砂ヲ直接築堤ヶ所ニ排砂シ上部築立ハ人力トロニ依リタリ、其後向島、橫大路、葭島新田堤防腹付工ヲ起シ築堤用土ハ川中ノ金井戸、月貫、橫大路ノ中島並ニ右岸沿堤外民有地全部ヲ買收シ掘鑿地ニ充當セリ、左岸築堤ハ主トシテ人力掘鑿五噸機關車運搬トシ堤防屈曲甚シキ箇所ハ裏及表ニ腹付シテ稍之ヲ匡正セリ、右岸築堤ハ上記中島ノ掘鑿土ヲ利用スルノ關係上宇治川ヲ橫斷運搬スルノ要アリ之レヲ以テ高瀬川新堤工事ト併行施工スルヲ便トセルヲ以テ新高瀬川用地買收終了ト共ニ大正十三年十月向島機械掘鑿工ヲ起シ宇治川ニ延長二七〇米ノ運搬用假橋ヲ架設シ其低水路ニ當ル部分ニハ特ニ徑間一八米ノ木造構橋ヲ使用シテ通航ヲ阻害セザランコトニ勉メ十四年度ニ入り掘鑿ノ開始ト共ニ上記右岸築堤ニ運搬其完成ニ勉メタリ。

高瀬川新堤ハ京阪電鐵京都府道其他ヲ橫斷スベキニツキ是等交通上ノ支障ヲ除カンガ爲メ大正十五年度附帶工事トシテ京阪電鐵高瀬川橋架設工事ヲ起工セシムルト共ニ京都府道橋三栖、繩手ノ二橋其他用惡水樋門工事ノ新築ニ着手セリ。

京阪電鐵假線路完成後ハ其假橋々下ヲ潛リテ列車ヲ運轉セシメ高瀬川新堤ノ築造ヲ開始シ、漸次上流ニ

及ボシ竹田村地内高瀬橋ニ至ルノ間ハ二十噸汽關車ニ依リタルモ以上終点ニ至ルノ間ハ河道ノ屈曲甚シキト堤体ノ狭少ナルガ爲メ一時高瀬川橋下流堤敷ニ捨土シ三噸ガンソリン汽關車ニ依リ運搬セリ。

新高瀬川築堤ハ大正十三年六月着工昭和四年度ニ於テ殆ド完了シ昭和五年一月新川口ノ開鑿ヲ了シ宇治川ト連繼セシメタリ。

是ノ方面築堤用土ノ採取ハ上記中島ノ機械掘鑿ニ依リタルモノニシテ高瀬川筋築堤ニ利用セルモノ凡六十萬立米、宇治川右岸築堤高瀬川合流以下凡十八萬立米ニシテ左岸築堤十八萬立米ハ人力掘鑿ニ依レリ機械掘鑿ハ大正十三年十月月貫島掘鑿ヲ初メトシ金井戸、横大路ニ及ビ其深サハ低水位下〇・六米乃至一米餘ニ及ビ島ノ周邊ヲ殘シ排水シツ、掘進セリ、又屢々洪水ニ冠水セラレ作業上尠カラザル支障ヲ蒙リタリ。

本區間護岸工事ノ主ナルモノハ伏見新堤、三栖閘門前後、横大路表腹付堤防、及高瀬川筋護岸トス、伏見護岸ハ大正十二年末起工シ延長三一〇米ノ杭打石張護岸並ニ觀月橋以下平戸樋門ニ至ル區間ニ對シ土留兼用ノ間知石積工ヲ施工セリ。

横大路護岸ハ大正十三年九月ノ起工ニシテ延長凡一八八五米ニ亘リ根固沈床植石法張混凝土ヲ施工セリ、本護岸ニ接續スル上流凡一六〇〇米ハ沈床根固、三割ノ法覆捨石工ヲ施工シ何レモ昭和二年竣功セリ三栖護岸ハ洗堰、閘門前後ノ導放水路並ニ宇治川右岸堤脚ニ施セルモノニシテ洗堰閘門附近ハ鐵筋混凝土

土矢板護岸トシ其他ハ杭打石張トス、昭和四年度殆ド竣功セリ。

高瀬川筋ハ全川表小段法面ニ簡易ナル捨石ヲ施工シ小段ナキ上流部ハ堤脚ニ杭打柵護岸ヲ施セリ、亦下流部卑濕ノ地ハ堤裏法先ニ石張ヲ施工ス、昭和二年七月着工昭和四年度大部ヲ完了シ得タリ。

特種工事トシテハ平戸樋門、三栖洗堰、三栖閘門、高瀬樋門等ニシテ平戸樋門ハ大正十二年十一月起工十三年度中殆ド竣功シ、洗堰ハ十三年九月起工大正十四年度大分ヲ完了シ、三栖閘門ハ全十五年二月起工昭和四年三月竣功セリ。

以上諸工事ト密接ノ關係アル京都市疏水放水路工事ハ大正十三年着工京都市ノ施工ニカ、リ水路ノ開鑿ハ全十四年度殆ド完了シ制水門工事ヲ殘シ一時工事ヲ中止シ新高瀬川ノ完成ヲ俟テテ疏水ヲ之ニ通ジ工事ヲ工施スルノ方針ニシテ昭和五年秋冬ヲ期シ施工ノ豫定ナリ。

淀御牧方面

此ノ方面ハ先ニ淀川改良工事ニ依リ付換セラレタル新宇治川堤防ノ擴築ヲナスモノニシテ右岸淀大橋上流築堤ノ一部屈曲甚シキ箇所ニ新堤ヲ築設セルノ外何レモ外腹付トセリ、大正十二年四月右岸御牧築堤ニ着手、鋤簾式浚渫船ニヨリ宇治川川底ノ砂ヲ採取人力ニヨリ運搬築立セルモ工程捗ラザルガ爲メニ後上流横大路築堤工事施工ニ際シ向島機械掘鑿ヲ利用スル事トシ線路ヲ延長シ殘餘ノ築堤ヲ完成セリ、淀大橋下流右岸築堤ハ三川合流工事ノ掘鑿土砂ヲ利用スルモノトシ昭和二年一月起工昭和三年十二月完成

左岸築堤ノ中淀大橋上流ハ大正十二年五月着工、全十五年十二月竣功セリ、淀大橋下流木津川合流ニ至ル間ハ全十三年八月着工全十五年五月完成セリ、築堤用土ハ一部向島地先中洲ノ掘鑿ニヨリタルノ外木津川流末堤外砂洲ヲ掘鑿利用セルモノニシテ五噸機關車ヲ使用シ運搬セリ、是方面築堤土量ハ右岸凡二十八萬三千立米、左岸二十八萬餘立米ナリ、川表護岸ハ右岸淀町地先宇治川亂流ヶ所ニ水制並ニ輕易ナル假護岸ヲ施工セルノミニシテ裏護岸ハ左岸淀大橋下流大池惡水路添堤脚ニ延長一千六百九十餘米ノ石張工ヲ施工セリ。

附帶工事大池樋門繼足工事ハ昭和二年十月着工川表翼壁ヲ繼足シ全三年五月竣功セリ。

三川合流方面

三川合流付換工事ハ既ニ記セルガ如ク宇治川ノ洪水ヲ輕減セントスルモノニシテ在來宇治桂隔流堤ノ上半ヲ開鑿シテ之ニ宇治川ヲ通シ殘部ハ在來宇治木津合流先堤防ニ連絡スルモノニシテ之ニ伴ヒ施工スベキ工事ハ桂川左岸山崎引堤、桂川低水路付換、宇治川新低水路ノ開鑿、宇治、桂ノ脊割堤、宇治、木津隔流堤其他用惡水樋門工事等トス。

此掘鑿運搬土量約百二十萬立米、護岸延長約七千米ニ及ブ。

工事施工ノ順序ハ山崎引堤ヲ第一トシ、次ニ桂川低水路ヲ開鑿シ舊川ヲ締切リテ之ニ通水スルト共ニ新宇治川ノ開鑿ヲ起シ宇治木津隔流堤工事ヲ最終トシ完了セシムルモノトス。

山崎引堤ハ大正十四年十月着工セルモ用地ノ買收並ニ調停頓坐シ工事ノ進捗上少カラザル支障ヲ生ジ上記一部ノ施工順序ヲ變更スルノ止ムナキニ至リタリシモ昭和元年末漸ク解決ヲ見ルニ至リタルヲ以テ昭和二年度ニ於テ極力之ガ功程ノ回復ニ勉メ現堤ヲ機械ニ依リ掘鑿除去スルト共ニ直ニ引堤ヶ所ニ運搬築立テ昭和二年夏期出水ニ備ヘタリ、此間用惡水樋門ノ移轉四ヶ所ヲ了シ築堤ノ進捗ニ追從セシメタリ。大山崎引堤ノ進工ト共ニ新桂川低水路ノ機械掘鑿並ニ浚渫ヲ開始シ機械ヲ集中シテ其進捗ヲ圖リ昭和二年末舊桂川ヲ締切リ新低水路ニ通水セリ、宇治川新低水路ハ十五年四月着工下流在來宇治川隔流堤終端以西ノ堤外地掘鑿ヲ初メ掘鑿機ニ依リ上掘ヲナシ昭和三年度中殆ド其竣成ヲ見タリ、是等掘鑿土ハ桂川左岸築堤擴築ニ利用セリ昭和三年七月以降浚渫船ノ全能力ヲ集メテ浚渫作業ニ主力ヲ注グト共ニ全年十月末在來宇治川隔流堤上半凡四百米ノ除却ニ着手シ機械ニヨリ掘鑿シ其土砂ハ後ニ宇治、木津隔流堤工事ニ利用スルノ目的ヲ以テ一時現宇治川隔流堤先端下流ノ洪水敷ニ置土スルコト、セリ。是等工事ト前後シテ宇治木津隔流堤工事ヲ初メ五噸機關車二台ヲ使用シ木津川寄洲ヲ掘鑿運搬シ上流側ヨリ捲出スト共ニポンプ式漂浚船ヲ使用シ堤敷ニ排砂シ一方宇治川締切箇所ニハ沈床ヲ布設シツ、幅員ヲ縮少シ僅カニ通航ニ支障ナキ程度ニ至ラシメ昭和四年二月十日始メテ新宇治川ニ通水スルト共ニ急遽宇治川ノ締切ニ全力ヲ注ギ掘鑿機二台、二十噸機關車二台、五噸機關車二台、其他漂浚船ノ全能力ヲ舉

ダテ前記置土ノ掘鑿運搬浚渫等ニ晝夜工ヲ續ケ一日凡三千餘立米ノ土砂ヲ運搬シ二月十九日完全ニ流水ヲ遮斷シ三月末日ニ於テハ殆ド全隔流堤ノ土功ヲ成就スルニ至レリ。

宇治、桂脊割堤ハ巾三六米、延長二千米餘ニ及ビ兩岸ニ沈床根固杭打石張護岸ヲ施工スルモノニシテ大正十五年六月着工、昭和四年度ニ於テ殆ド完成シ茲ニ三川合流付換工事ヲ完了スルニ至レリ。

八幡町地内淀川左岸築堤及護岸及木津川筋兩岸築堤ハ大正八年十二月着工、大正十三年四月竣功ヲ見タリ、是ノ土量二十七萬五千餘立米護岸延長千九百米餘ニ及ブ。

樟葉牧野、五領、島本方面

是ノ方面ノ工事ハ舊堤ノ擴築、中島ノ掘鑿及護岸工事ニシテ掘鑿土量合計百七十五萬餘立米ニ及ブ、内機械掘鑿凡百萬立米ニシテ樟葉、牧野、上牧地先ノ宏大ナル中洲ヲ掘鑿シ築堤用土ニ充ツルノ外餘剩土砂ヲ以テ堤防近接ノ池沼ヲ埋立タリ。

大正八年四月五領地先ニ人力掘鑿ヲ起シタルヲ初メトシ全九年樟葉地先、全十年島本地先、全十二年牧野地先ニ及ボシ何レモ人力ニ依ルノ外ナカリシガ大正十一年七月初メテ樟葉地先ニ短梯掘鑿機ノ運轉ヲ開始スルニ至リ次デ牧野地先ニ移シ十五年右岸上牧地先ニ及ボシ先ニ人力ニ依リ上掘セル箇所ヲ掘鑿セシメ前島築堤及檜尾川右岸堤防ノ擴築ニ利用シ、昭和二年五月其完了ヲ俟テテ之ヲ三川合流方面ニ移シタリ。

是等機械掘鑿ト前後シテ人力掘鑿ヲ起シ五噸機關車ヲ使用シ左岸支川堤防ノ擴築ヲ施工セリ、護岸ノ主ナルモノハ上牧及前島護岸ニシテ延長合計二千五百五十餘米ニ及ビ何レモ沈床根固杭打石張護岸ヲ施工ス本方面ニハ多數ノ用惡水樋門ノ繼足並ニ改造ヲ要スベキモノアリ何レモ築堤ノ進捗ト相俟テテ是等附帶事業ヲ直轄施工シ昭和四年度ニ於テ是ノ方面ノ工事ハ殆ド完了セリ。

枚方大冠三ヶ牧蹊路方面

此ノ方面ハ水上重要區域ニシテ大正八年本工事開始セラル、ヤ先ヅ是ノ方面堤防ノ擴築ニ着手シ極力其進捗ヲ計リテ己ニ全十年度ニ於テ表小段以上〇・九米迄ノ腹付ヲ了シタリ是ガ爲メ大正十年九月ノ大洪水ニ於テモ水上危険ト認ムベキ事故ヲ見ザリキ、是等下段築堤工事ハ創業日淺ク機械ノ利用スベキモノナク人力トロニヨリ附近寄洲ヲ掘鑿運搬スルノ外ナカリキ、大正十年十一月蹊路地先ニ初メテ機械掘鑿ヲ起シ順次友呂岐九ヶ莊ニ及ビタリ、枚方以下友呂岐ニ至ル左岸築堤ニ充用セルモノ凡四十萬立米ニ及ビタリ。

是等左岸機械掘鑿ト前後シテ右岸大冠地先ニ機械掘鑿ヲ開始シ次デ三ヶ牧地先ニ移シタリ、大冠三ヶ牧築堤土量合計六十萬立米ナリ。

是等掘鑿土ハ其一部ヲ下流築堤用土ノ不足セル區間ニ運搬シ左岸庭窪、右岸大道豊里方面ニ及ボシ之ガ爲メ運搬距離遠キハ十料ニ及ビ運搬用機關車ハ常時一線ニ二台ヲ使用シタリ。

掘鑿土砂合計百三十六萬餘立米ニ及ビ大正十四年度完了セリ。

護岸ノ主ナルモノハ枚方千九百餘米、蹠跽五百五十米、友呂岐百二十七米、大冠千五百餘米、三ヶ牧三千四百二十餘米ニシテ沈床根固、杭打石張護岸ヲ使用シ大正十二年度完成セリ。

附帶工事用悪水樋ハ芥川筋新川樋門ヲ大正八年起工セルヲ初メトシ大樋、鳥ケ下、三ヶ牧等右岸用悪水樋門ハ築堤工事進工ト相俟テテ施工シ大正十五年度中殆ド完了セリ。

枚方以下左岸用水樋ハ其合同ノ要ヲ認メラレツ、久シク實現ヲ見ルニ至ラザリシモ昭和四年八月合同ノ機漸ク熟シ新組合ノ設立ヲ見次デ全年十一月舊樋ノ撤廢並ニ新用水工事ノ施工ヲ開始シ爾來晝夜兼行其進捗ニ勉メ全年四月新水路ニ通水スルニ至リタリ。

九ヶ莊、庭窪、鳥飼方面

是ノ方面モ枚方方面同様急速腹付施工ノ必要アルヲ以テ表小段上○・九米迄ノ腹付工事ハ大正十一年度迄ニ略全區域ニ亘リ完了シ其後機械掘鑿土砂ヲ利用シ上部築立ヲ完成セリ、左岸九ヶ莊庭窪ノ築堤土量六十六萬餘立米、右岸鳥飼味牛築堤ニ四十五萬餘立米ヲ要シタリ。

掘鑿ノ主ナルモノハ九ヶ莊及鳥飼地先ニシテ機械並ニ人力ニ依リタルモ其合計二十七萬餘立米ニ過ギズ築堤所要土量ノ不足ハ上流區機械掘鑿ヲ以テ補ヒタリ。

護岸工事ハ左岸九ヶ莊、庭窪、右岸鳥飼ヲ主トシ其總延長九千七百七十餘米ニ及ビ大正十二年度迄ニ何レ

モ竣功シ、沈床根固杭打石張護岸ヲ施工セリ。

附帶工事用水樋繼足並ニ改築工事ハ大正十二年十二月右岸河原樋ヲ初メトシ五久、實正ハ昭和三年度迄ニ完成シ、左岸木屋外三ヶ樋門ハ上記合同統一セラレ昭和四年度撤廢セラレタリ。

守口、大道、豊里方面

是ノ方面ハ大正十一年一月右岸城東線貨物鐵橋上流ノ表小段築堤ヲ開始シ大正十三年度迄ニ兩岸下段築立ヲ完了シ次デ上部築堤ニ及ビ大正十五年六月何レモ竣功セリ、右岸築堤凡二十五萬立米左岸二十六萬餘立米ニシテ是等築堤土砂ハ附近寄洲ノ掘鑿ノミニテハ不足セルヲ以テ上流區ノ掘鑿土ヲ利用セリ。

護岸ハ大道地先ニ少許ノ沈床石張護岸ヲ施工セルノ外右岸豊里地先堤裏用水路ニ接スル部分延長千七百二十餘米ノ石張護岸ヲ施工シタルノミ。

附帶工事神崎川樋門ハ昭和三年冬季裏側壁ヲ繼足スルト共ニ樋底○・三米ヲ切下ゲ補強シ合掌門扉ヲ引上扉ニ改造シ面目ヲ一新セリ。

左岸用水樋ハ五個樋並ノ二樋ニシテ前記合同用水ニ統一セラレ撤廢セラレタリ。

毛馬、城北、柴島方面

大正十三年九月城北築堤ニ着手セルト前後シ右岸柴島築堤ヲ起シ大正十五年度完了ス、左岸築堤二十二萬八千餘立米、右岸十二萬九千餘立米ニシテ毛馬及赤川ハ地元洪水敷ヲ柴島ハ西中島地先ヲ掘鑿シ充用

セリ。

護岸ハ柴島地先ニ延長五百五十餘米ノ沈床石張護岸ヲ施工シ昭和三年度竣功セリ。

新淀川方面

左岸築堤ハ大正十四年度起工傳法閘門附近ヨリ上流ニ向ヒ進工セシメ昭和三年度ニ於テ竣功セリ、其土量三十六萬餘立米ニ及ブ、右岸築堤ハ大正十五年六月柴島築堤ニ引續キ施工シ下流ニ向ヒテ進工セシメ西島閘門ニ至ラシム、昭和四年度迄ニ凡三十五萬餘立米ノ土運搬ヲ終リ目下淀川大橋阪神電鐵橋間ノ上部築立ヲ殘スノミナリ、築堤用土ハ兩岸洪水敷ヲ人力ニ依リ掘鑿シ五噸機關車ヲ使用運搬セリ、殊ニ下流潮區ニ於テハ潮水ノ冠水ヲ受クルコト屢々ニシテ工程ヲ阻害セラル、コト著シキモノアリタリ、毛馬閘門以下長柄起伏堰下流ニ至ル延長九百米ノ區間ハ堤表ニ低水路近接シ裏ニ長柄運河ヲ控ヘ堤敷擴張ノ餘地ヲ存セザルヲ以テ表ニ混凝土矢板護岸ヲ施工セリ、内毛馬閘門附近百三十餘米長柄起伏堰下流七十二米ハ各ラルベン型及テルルージュ型鐵矢板護岸ヲ施工セリ、尙護岸前面ニハ沈床ヲ布設シテ根固トセリ、昭和二年五月着工以來極力工事ヲ進メテ全年度中ニ矢板ノ打込ヲ了シ昭和三年度中沈床、石張ヲ施工シテ完了セリ。

又低水路右岸起伏堰上流ハ川巾狹キニ失スルヲ以テ是ノ部分ヲ浚渫擴張シ石張護岸ヲ施工スルト共ニ起伏堰下流護岸ノ改築ヲナセリ上下延長合計九百餘米ニ亘リタリ。

長柄固定堰ハ稍高キニ失スルヲ以テ其頂部ヲ○・三米切下グル事トシ尙下流水叩荒廢ノ補修、並ニ上下洪水敷深掘箇所ノ整理ヲ施工セリ。

毛馬閘門洗堰補修工事ハ昭和三年十一月着工ス、洗堰ハ通水ヲナシツ、修補スルノ必要上移動締切柵ヲ使用シ堰柱ノ繼足ヲナシ、閘門ハ前扉室壁體ノ繼足並ニ閘扉ノ補強ヲナスト共ニ其開閉上必要アル制水扉並ニ其扉室ヲ築造スルモノニシテ何レモ着工以來日夜工ヲ急ギ昭和四年度竣功ヲ見タリ。

長柄運河給水樋門ハ洪水時運河ノ給水ヲ計ルモノニシテ毛馬閘門下流ニ新設セルモノニシテ昭和四年十月着工、全年度末殆ド竣功セリ。

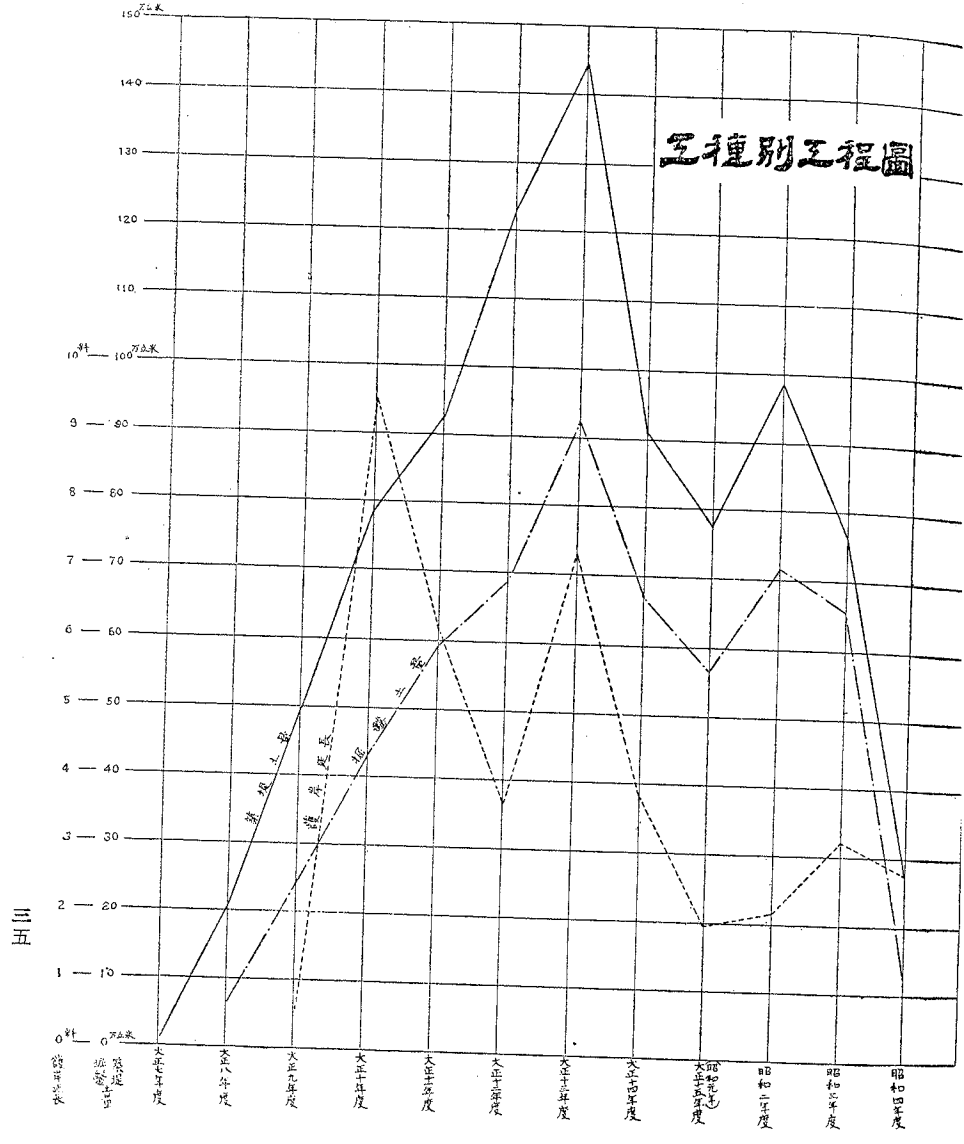
二、築堤工事

築堤施工延長ハ百九千四ニシテ内幹川八六千三ナリ、大阪府下ニ屬スルモノハ七七千九、京都府下三一千五ニシテ更ニ之ヲ左右岸ニ分ツトキハ左岸五五千五、右岸五三千九ナリ。

築堤總土量ハ昭和四年度末ニ於テ約八百八十二萬立方米ニシテ内掘鑿利用土四百八十四萬六千餘立米ナリ、之ガ築堤支出工費二百五十五萬餘圓ニ及ブ。

築堤ハ將來沈下ヲ見込ミ計畫馬踏高以上○・九米ノ餘盛ヲナシ小段モ相當ノ餘盛ヲナスコト、セリ施工斷面ハ附圖ニ示スガ如シ。

堤腹ハ厚サ凡一・八米ハ三十糎ニ搔キ均シ石蟠ニテ充分搗キ固メ芝付ヲナスモノトセリ。



三、護岸水制工事

堤脚保護ノ爲施工セル護岸工事ハ其工法各種ニ亘リタルモ主トシテ沈床根固杭打石張護岸トセリ。

沈床ハ巾五・五米ノ粗朶沈床ニシテ一層乃至數層ヲ重ネテ布設シ根固トシ沈床脊後ニ巾一・八米ノ平割石張ヲ施工シ上部ハ法長一・八米乃至二・九米ノ割石張ヲナスモノニシテ其勾配二割トセリ、石張胴木ニ鐵筋混凝土桁ヲ使用シ留杭ニ松丸太ヲ使用セリ。

沈床ヲ使用セザル箇所ハ平割石張ノ前端ニ松又ハ杉丸太ヲ以テ詰打杭ヲナスコト、セリ。

昭和四年度迄ニ施工セル各種護岸ノ延長合計ハ三萬八千七百餘米ナリ。

水制工事ハ在來制水工事ノ破損甚シク水流ニ著シキ變化ヲ來スノ虞レアルモノニ對シ舊態維持ノタメ施工セルモノ、及河岸ノ缺壞ヲ防止スルモノ其他洪水敷掘鑿跡保護ノ爲メ在來水制ヲ連續スルガ爲メニ施工セルモノナリ。

構造ハ沈床又ハ單床杭打石詰ニヨルモノ多ク後長柄、鳥飼、仁和寺地先ニ透水性上置水制ヲ試ミタリ昭和四年度迄ニ施工ノ總延長ハ九千餘米ナリ。

直營採石

護岸工事ニ使用ノ石材ハ直營採取スルコト、シ、大阪府三島郡島本村水無瀬川上流東大寺並ニ京都府紀伊郡槇島村宇治川上流天ヶ瀬ニ採石場ヲ定メタリ、天ヶ瀬採石場ハ大正八年三月實測ニ着手シ全年九月

採石ニ着手シ初メ手掘ニヨリタルモ次デ鑿岩機ヲ使用スルコト、シタリ、大正十二年度閉鎖ス。

東大寺採石場ハ淀川下流工事ニ使用セル區域ニ接近シ大正八年六月用地ノ買收ヲ了シ全八月採石ニ着手シ手掘ニ依リタリ、昭和四年三月閉鎖セリ。

其採石數量ハ次ノ如シ

東大寺採石合計七萬二千九百餘立米ニシテ内大割石二萬九百餘立米小割石二萬三千五百餘立米ニシテ其他ハ小碎石トス、工費合計十三萬二千八百餘圓ヲ要シタリ、天ヶ瀬採石數量ハ四萬二千八百餘立米ニシテ内大割石一萬八千四百餘立米小割石一萬三百餘立米ニシテ其他小碎石ナリ工費十二萬餘圓ヲ要シタリ採石ノ運搬ハ天ヶ瀬ノモノハ一時伏見三栖地先ニ水上運搬貯石シ現場ニ配給スルモノトシ東大寺採石ハ水無瀬川堤上ヲ輕便車ニ依リ其川尻ニ陸送貯石シタリ。

四、掘鑿浚渫工事

起工以來掘鑿ヲ施工セシ箇所四十六ニ及ビ其土量昭和四年度ニ於テ總計五百六十七萬六千餘立米ニ及ビ工費支出百七十二萬七千餘圓ニ達シタリ。

掘鑿ハ洪水疏通ノ支障トナルベキ中洲ヲ切下ゲタルモノニシテ其高サハ低水位上〇・三米ヲ標準トセリ掘鑿土ハ築堤ニ利用スルモノトセルモ時ニ堤脚民有池沼埋立ニ用ヒタルコトアリ。

掘鑿ハ人力並ニ機械ハニ依リタルモノニシテ機械掘鑿二百噸掘鑿機三台ヲ使用シ運搬ニ二十噸汽關車ヲ使用セリ昭和四年度迄ニ掘鑿セル土量三百九十四萬八千餘立米ニシテ工費百六萬七千餘圓ヲ要シタリ人力掘鑿ハ運搬ニ五噸、三噸ノ小型汽關車ヲ使用スルヲ常態トシ時ニ二十噸汽關車ヲ使用セリ。亦近距離運搬ニ對シテ人力ヲ使用ス。

浚渫ヲ要シタル箇所ハ平戸樋門三栖閘門洗堰等導水又ハ船溜ノ爲メニ施工セルモノト三川合流付替工事ニ於ケル低水路ノ開鑿等トス。

昭和四年度迄ニ浚渫ノ土量ハ十八萬三千餘立米ニシテ工費支出七萬四千餘圓ヲ要シタリ。

浚渫船ハブリストマン二隻、一時間六十立米掘バケツト式浚渫船一隻、及一時間三十立米掘ポンプ式浚渫船ヲ使用セリ、浚渫土ハ三立米積木船又ハ三十立米積大型鐵船ニ積込ミ築堤ケ所ニ投棄セリ。

五、特種工事

平戸樋門

伏見新堤築設ノ結果、宇治川派川平戸川ハ之ヲ締切ルノ必要ヲ生ジ其流頭ニ水門ヲ新設シテ改修後ニ於ケル伏見市内運河ニ給水シ流水ノ新陳ヲ計ルト共ニ小舟ノ通航ニ充テントス。

位置ハ京都府紀伊郡堀内村字彈正島、平戸川分派口新堤下ニシテ構造ハ徑間三・六米高四・九五米長十ニ米鐵筋混凝土拱樋トシ翼壁ハ表裝ニ煉瓦ヲ使用セリ、門扉ハ鐵扉ニシテ引上扉トシ其開閉ハ電力又ハ人力ニ依ラシムルノ裝置トセリ、水門基礎ハ鐵筋混凝土沈函ヲ沈設シ堅固ナル礫層ニ達セシメタリ、沈函ノ大サハ長十二米巾九・七米高サ六米一個、及長十二米巾七・三米高六米一個ヲ使用シ沈函繼手ハL字形鐵筋混凝土壁體ヲ繼足沈下シテ沈函基礎ト同高タラシメ、内部ヲ混凝土ニテ慎充セリ、沈函ノ沈下ハ初メガットメル土揚機ヲ使用セルモ地質ノ狀況良質ノ粘土層厚クシテ其功程不良ナリシヲ以テ六吋ポンプ四台ヲ設備シ水替ヲナシタル結果良好ニシテ空掘ヲナシ得タルノミナラズ沈下荷重ヲ省略スルヲ得著シク効程ヲ回復シ得タリ。

本工事ハ大正十二年十一月着工シ全十五年三月竣功セリ、工費五萬七千餘圓ヲ要シタリ。

平戸陸閘

伏見築堤ノ爲潰地トナリタル伏見工兵大隊演習用地所管換條件堤外演習地ニ達スル通路トシテ京都府紀伊郡伏見町字平戸ニ施設セルモノニシテ路面高ハO.P.上十六米トシ巾六・三六米高二・一米トシU字型鐵筋混凝土壁體ニシテ中央ニ二條ノ角落堰ヲ設ケタリ、表裝ハ煉瓦張リトシ角落溝ニ花崗石ヲ使用セリ、基礎ハ堅緻ナル粘土硬層ヲ掘鑿シ鐵筋混凝土床版ヲ布設シ基礎杭ヲ使用セズ床版中央ニ止水壁ヲ設ケタリ、本工ハ大正十二年十二月平戸樋門ト前後シテ起工シ十四年五月竣功セリ、工費五千九百餘圓ヲ要シタリ。

浚成後ハ之ヲ陸軍省ニ移管セリ。

三 栖 洗 堰

伏見新堤築設後ト雖モ常時京都市疏水ハ從來ノ如クニシテ宇治川ニ導キ其利用ヲ絶タザルコト、シ之ニ市内悪水ヲ加ヘ之ガ排除ノ必要上三栖地先ニ排水門ヲ築造スルノ要アリ且比年宇治川ノ水位低下シ市内運河ノ水面勾配著シク急ニシテ舟航其他ニ支障ヲ來タセルノ期間相當長キニ亘ルヲ以テ運河水面ノ上昇ヲ計リ是ガ緩和ヲ計ルヲ得策トシ其構造ハ是等ノ目的ニ適合セシメタリ。

築造ノ位置ハ京都府紀伊郡向島村字金井戸島現高瀬川合流口上流ノ中島ニシテ徑間五・五米高サ三米ノ水通三連ヲ有シ水通底面ノ高サヲO.P.一〇・三米ニシテ平均低水位下一・八米トセリ、堰柱ハ巾一・八米長サ九・八五米、高七・八米二本ニシテ兩橋台ト厚〇・六米ノ幕壁ヲ以テ連結セラル、洗堰全長三六・四米ヲ一体ノ鐵筋混凝土構造タラシメタリ、基礎ハ鐵筋混凝土沈函三個ヲ使用シ其大サ一〇・九米角一個、及長一〇・九米巾八・五米二個ニシテ高サハ何レモ六・六七米ナリ、地質ハ上層粘土層ニシテO.P.上六米以下ハ堅固ナル砂礫層ナルヲ以テ基礎ノ底面ヲO.P.五・七五米トセリ、洗堰前面ニハ巾八米ノ混凝土水叩ヲ布設セルノ外其前方ニ巾一七米ノ沈床ヲ敷設シ、脊面ニハ巾一六米ノ沈床ヲ布設ス、洗堰導放水路護岸ハ鐵筋混凝土矢板護岸トシ川表ハ割石法張、川裏ハ混凝土張トセリ。

各水通ニ一枚ノ鐵扉ヲ備ヘ鐵筋混凝土桁ノ對重ヲ附シ電力ニ依リ裝作シ又人力ニ依ラシムルヲ得、扉ノ重量九噸ナリ。

本工程ハ大正十三年九月着工シ全年度末迄ニ基礎沈函工事ノ大分ヲ終了セリ、沈函工事ハ水替、空掘ノ方法ニ依ラシメ上部混凝土工事ハ全巾一体ニ施工セシムルコト、シ高サ一・五米トシ五回ニ分割施工セリ。

カクテ混凝土工事ハ大正十四年中ニ完了シ門扉捲揚機ノ据付ヲ了シ大正十五年度中ニハ、照明裝置ヲ殘シテ竣功ス、工費十萬二千餘圓ヲ要シタリ。

尙本洗堰橋台ハ内部ヲ中空トシ内ニ各一台ノ豎軸離心電働唧筒口徑八三六耗ヲ据付ケ洪水ニ際シ各水門閉鎖後ノ降雨ニ對シ市内浸水ヲ輕減ニ充ツルモノトセリ、其排水能力一八實揚程二・四米ニ對シ毎秒一・一九立米、他ハ全一・八米ニ對シ一・四二立米トス。

本排水工事ハ伏見市ノ負擔トス。

三 栖 閘 門

伏見新堤竣成後ニ於ケル伏見市外運河及京都市疏水運河ト宇治川トノ舟運連絡ヲ計ルモノニシテ三栖洗堰下流現在高瀬川合流口ニ新設スルモノトス。

本閘門ハ其構造從來ノ合掌扉ヲ有スルモノト趣ヲ異ニシ開扉ハ引上扉タラシメタリ、是レ宇治川ノ水位高キ期間ハ本閘門ハ開放シ洗堰ニヨリ水位ノ調節ヲナスニ際シテ運用スルモノナレバ是等轉換ニ際シテ

ハ合掌扉ノ運用確實ヲ缺キ、若シ開放中出水ヲ受ケ之ガ閉鎖ノ不能又ハ遲延ヲ生ズル時ハ伏見防水工事ヲ水泡ニ歸スベキヲ恐レタルコト、

第二常時ハ市内運河側高水ヲ示シ出水ニ際シテハ宇治川側高水タルヲ以テ合掌扉ヲ使用スル時ハ複扉ヲ要スベク之ニ伴フ扉室其他ノ工費大ナルコト、

第三扉ノ維持修理容易ナル事、等ノ理由ニヨルモノニシテ近時電力ノ普及機械製作ノ進歩ハ更ニ之ガ施設ヲ容易ナラシムルモノニシテ之ガ運轉經常費亦節約シ得ベシ、閘門ノ幅員ハ扉室ニ於テ八米、閘室ニ於テ十一米トシ其閘高ハ宇治川側低水位下二・七米市内運河側二・二米トス、扉室ノ長サ前扉室一〇米後扉室一〇・五米トシ閘室長七二・九米ニシテ閘門有効長八十二米ナリ。

閘扉室ハ構造鐵筋混凝土壁體ニシテ下部何レモU字形暗渠ヲ包藏セリ、基礎ハ鐵筋混凝土沈函二個ヲ使用シ其大サハ後扉室沈函一・一米角高四米前扉室、長一・一米、巾九米、高四米ナリ。

各扉室ハ其上部ニ一對ノ鐵骨鐵筋混凝土塔ヲ載セ閘扉ノ捲上ニ備ヘタリ、塔ノ高サハ一六・六米ニシテ一邊三米ノ正方形斷面ヲ有シ内部ハ中空ニシテ閘扉ノ對重ヲ收容セリ。

閘室ハ側壁ニラルゼン型鐵矢板長七米ヲ打込ミ其高サヲ低水位上一・二米トシ頂部ニ巾一米ノ鐵筋混凝土版ヲ以テ犬走ヲ設ケ以上O.P.一五・一米ニ至ル高サ一・八米ハ一割五分法ノ混凝土張トセリ。

閘室底面ハ扉室ニ近接セル部分ニ沈床ヲ布設シ其他ハ厚〇・六米ノ詰石ヲ施工セリ。

閘扉ハ前扉巾九米高五米ニシテ重量二三・六噸、後扉巾九米高九米、裝備重量三七・六噸ニシテ之ガ開閉用機械ハ高塔間ニ架設ノワールン構橋上ニ配備セリ。

閘扉ノ開閉ハ常時電力ニ依ルモノトシ閘扉及暗渠扉共遠方操作方式ヲ採用シ操作所内ニ於テ運用スルモノトシ一切ノ自働安全裝置ヲ具備セシメタリ。

閘門前後取付護岸ハ鐵筋混凝土矢板ヲ打込ミ上部ヲ割石張トス、後扉室前面、宇治川側ニハ巾七・七米ノ混凝土床張ヲナシ其前面ニ鐵矢板ヲ打詰メタル外更ニ巾一四米ノ沈床ヲ布設セリ。

本工事ハ大正十五年二月着工シ先ヅ築設ケ所ノ埋立工事ヲ開始シ其成ルヲ俟チテ前後扉室築造ケ所四周ニ鐵矢板ヲ打込ミ内部ノ掘鑿ト共ニ沈函ヲ築造シ沈函ノ沈下ハ水替空掘ノ工法ニヨリ六吋ポンプ四台ヲ使用シ排水シツ、掘リ下ゲ基礎砂礫層ニ達セシメタリ。

基礎完成後ハ壁體ノ築造ヲ急ギ埋立地盤高以上トナルニ及ビテ上記土留鐵矢板ヲ抜き取り之ヲ閘室壁ニ利用スルモノトシ之ガ打込ミ作業ヲ開始シ其成ルヲ俟錠版ノ取付ヲ了シ閘室内ノ掘鑿ヲ始ム、此ノ間扉室及高塔ノ築造ヲ進メ昭和二年度中殆ド其竣成ヲ見、昭和三年度閘扉其他ノ裝備ヲ完了シテ竣功セリ、工費三十萬二千餘圓ヲ要シタリ。

毛馬洗堰補修

現洗堰々柱ハ計畫洪水水位上凡六〇浬ノ非常洪水位O.P.八米ニ於テハ其頂部ヲ溢流セラル、ノミナラズ其

安定ハ現在軀體ヲ其儘上部ニ繼足スノミニテハ未ダ充分ナラズ加フルニ堰桁ノ挿入並ニ撤去作業ヲ困難ナラシムルヲ以テ堰柱ハ上流側ニ二・一米ノ繼足ヲナスト共ニ此ノ部分ノ頂部ニ高一・七四米ノ鐵筋混凝土胸壁ヲ築造シ溢流ヲ防止スルト共ニ堰柱ノ安定ヲ確保シ併セテ洗堰運用作業ヲ阻害セザラシム堰柱繼足部分ノ基礎工事ヲ施工スルコトハ却而現堰柱ニ危害ヲ及ボスノ懼アルヲ以テ之ヲ廢シ上流厚一・二米ノ床固工上ニ繼足スルモノトシ、新舊堰體ノ連結ハ鐵構並ニ鐵筋ヲ挿入シ特ニ鞏固タラシメタリ、又現堰柱ハ下流側ニ石工拱ヲ架シ連結セラレタルモ更ニ堰柱間ノ鞏固ナル連絡ヲ計ルノ要ヲ認メタルヲ以テ上流側ニ鐵筋混凝土拱壁ヲ築造シ堰柱連結ノ安固ヲ期シタリ。

洗堰兩橋台繼足ハ中空壁體ニ依リ其重量ヲ輕減スルト共ニ鐵構並ニ鐵筋ヲ挿入シテ突桁トシ加フルニ基礎ニ鐵筋混凝土杭ヲ使用シテ困難ナル兩岸ノ掘鑿ヲ減少シ併セテ不同ノ沈下ニ備ヘタリ、現在洗堰下流ハ相當洗掘セラレ隨時之ガ復舊維持ヲ怠ズト雖モ更ニ洗堰上流側床固工ノ外側ヲ圍ミラルゼン型長七米鐵矢板ヲ打込ミ其頂部ヲ床固上端ト同高タラシメ既設矢板トノ間隔一・六米ハ深一・八米ニ浚濬シテ水中混凝土ヲ填充シ、堰底透水ノ阻止ニ勉メタリ。

本工程ハ洗堰運用ヲ絶ツコトナク施工スルノ要アリ其工法ハ木造移動締切枠ヲ使用スルコト、シ洗堰全長ヲ五回ニ區分シ締切り其一區間ニ於テ同時二本ノ堰柱繼足工事終了ト共ニ其締切枠ヲ浮動シ次ノ區間ニ曳航据付ケ作業ヲ繰リ返ス事トセリ。

本工程ハ昭和三年十一月着工先ヅ洗堰上流洪水敷ニ於テ締切枠ノ製作ヲ開始セリ、枠ノ大サハ長サ一三・二米、巾七米、高三・六米ニシテ凹字形ヲナシ木造結構底面、並ニ周圍ハ厚サ五糎ノ板張トス十二月製作完了ト共ニ進水シ洗堰ニ曳航シ左岸寄第一、第二堰柱ヲ包擁スル如ク位置ヲ定メ枠内ニ注水シテ之ヲ堰底ニ据付ケタリ、一方是等曳航据付ニ先立テ豫メ洗堰水通四徑間ニ堰桁ヲ挿入シ置キ流勢ヲ殺グト共ニ締切工ノ一部タラシメタリ。

枠底ト堰底、並ニ堰桁ト枠壁トノ水密ハ本作業ノ骨子ヲナスモノニシテ特ニ周到ノ用意ヲ怠ラズ殊ニ堰底ハ割石張ヲ施工セラレ相當不陸アルコトヲ知り得タルヲ以テ水密填隙材トシテハ枠底四周ニ徑五糎ノ木綿綱數條ヲ並列取付ケタリ、沈下ニ要スル荷重ハ枠内水重ニ依ラシメ僅カニ十五糎軌條ヲ以テ補足セルニ過ギズ、カクテ枠内切ノ水ヲ排水シ点檢セルニ漏水殆ドナク豫期以上ノ好果ヲ示シタルヲ以テ直ニ堰底ノ缺取り清掃ヲナシ疊築ヲ開始セリ、カクテ堰柱水面以上トナルニ及ンデ枠内ノ水ヲ排水シ之ヲ浮游セシメ次區ニ曳航スルモノトセリ。

橋台繼足前面ノ締切ハ豫メ其取付護岸法先ニ鐵矢板ヲ打込ミ之ト上記締切枠トノ間ニ更ニ同様目的ノ小締切枠ヲ介在セシメ完全ニ締切ルコトヲ得タリ。

堰柱繼足ノ順序ハ先ヅ兩岸橋台ノ完成ヲ急グノ必要上初メ左岸寄第一、第二、堰柱並ニ左岸橋台ノ繼足ヲ了シ次ニ右岸ニ渡リ右岸橋台及第八、第九堰柱ノ繼足ヲナシ爾後左岸ニ向ヒ順次工ヲ進メタリ、昭和

三年度中ニハ左右兩橋台並ニ四基ノ堰柱繼足ヲ終リ昭和四年夏季迄ニ全部堰柱ノ繼足ヲ完了セリ。
是等堰柱繼足工事ト前後シテ床固矢板打工事ヲ起シ其進行ヲ之ニ伴ハシメタリ地質砂利層ニシテ打込困難ヲ感ズカクテ上部ノ疊築胸壁ノ築造ヲ了シ昭和四年度竣功セリ、工費九萬餘圓ヲ要シタリ。

毛馬第一閘門補修

毛馬第一閘門翼壁ノ高サヲ前後堤防ニ準ジ二・四四米高ムルト共ニ前閘扉ヲ補強繼足シ併セテ本閘門開閉ノ確實ト迅速ヲ期センガ爲メニ前扉室ニ引上式鐵製制水扉並ニ之ガ扉室ヲ新設裝置スルモノナリ、是レ本閘門ハ常時開放セラル、ヲ以テ出水ニ際シ之ヲ閉鎖シ又ハ減水ニ依リ再ビ開放セントスル時ハ閘扉ノ構造上閘門内流水ヲ阻止スルヲ要シ之ガ爲メ現在長柄運河頭部ニ簡易ナル制水扉ヲ備へ運河ノ流水ヲ阻止シテ閘扉ノ開閉ヲナシツ、アルモ其ノ運用ニ屢々困難ヲ感ジツ、アルノ現狀ナルヲ以テ之ニ代ルベキ新制水扉ヲ閘門内ニ設置スルモノナリ。

制水扉ハ常時閘室左側壁内ニ新ニ築造サルベキ扉室ニ格納セラレ必要ニ應ジ引出スモノトス、引出ニ要スベキ跨閘橋ハ二鉸拱助鋼橋ヲ使用シ該橋梁上ヲ自働スル電氣走行起重車ニ依リ制水扉ハ懸垂セラレタルママ閘室内ニ引出サレ閘底ニ捲卸又ハ捲揚ララルモノトス、是等ノ作業ハ常時電力ニ依ルモノナルモ亦人力ニヨリ容易ニ操作シ得ルモノトセリ。

拱頂下端ノ高サハ計畫洪水位二・〇米トシ本流橋梁ニ準ゼシメ出水時通閘ニ支障ナカラシム。

制水扉室ハ鐵筋混凝土構造ニシテ扉室ノ巾二・七米、長一四・二五米、高六・二七米ニシテ壁体ハ扶壁ヲ有スル擁壁ニシテ基礎ハ鐵筋混凝土杭打工事ヲ施工シ厚サ〇・九米ノ鐵筋混凝土床版ヲ布設スルノ豫定ナリシモ地質ハ豫期ニ反シ硬ク砂利層ニシテ初メ長五・三米二五糎角ノ杭ヲ使用セルモ其打込ミ不能ニ終リシモノ少カラズ後杭長ヲ減ジ又ハ省略セリ、扉室築造ニ際シテハ現閘壁ノ一部ノ切取ヲ要シ壁ノ厚サ下部五・六米ニ及ビ之ガ作業ハ空氣壓搾機ヲ使用シ鑿岩機ヲ使用セリ、制水扉ヲ挿入スベキ導溝ハ現閘底ニ達セシムルヲ要シ而モ通閘ヲ閉スヲ得ザリシヲ以テ巾一米ノ木造單皮締切枠ヲ製作シ現存角落溝ノ位置ニ押シ當テ排水ヲナシツツ水中下ノ切擴ヲ施工セリ。

制水扉ハ巾一一・九七米、高三・三一米、厚サ一・二四米ニシテ重量十八噸トス對重ハ一一・六米、巾〇・六米、高一米ノ鐵筋混凝土桁ヲ使用スルモノトセリ。

電氣走行起重機ハ右扉及對重ヲ懸垂シ走行捲卸ヲナスモノニシテ走行速度一分間六米、捲卸速度二・四米内外トシ常時電力又人力ニ依ラシムルヲ得。

閘扉ハ製作据付後既ニ二十二年ヲ經過セシヲ以テ之ガ補強ヲナスノ要アルベキヲ豫想シ取外シ点檢セシニ水中部分ト雖モ板釧ノ減量ハ僅少ニシテ唯鉸頭並ニ緣端ノ損傷、腐蝕著シキモノアリタルヲ以テ是等ハ取換又ハ新材料ヲ添綴スルト共ニ鉸徑ヲ大ニシテ新ニ擴孔シ殆ド全部ニ亘リ綴釘ヲ改メタリ、繼足ハ上部二一・〇五米ヲ付加シ上下主橫桁ハ取換へ更ニ強大ナル構造ノモノトシ縱桁ハ之ニ鐵板ヲ重ネテ補

強スルコトトセリ、昭和四年三月補修ナリシヲ以テ之ヲ現場ニ取付ケタリ。

本工事ハ昭和三年十一月着工、昭和四年十一月竣功セリ、工費七萬九千餘圓ヲ要シタリ。

長柄運河給水樋門

平時ニ於ケル長柄運河ノ給水ハ毛馬第一閘門ヲ開放セルヲ以テ之レニ依リタルモ出水時ニ於テハ閘門閉鎖ノ爲メ僅カニ其給排水弁ノ運用ニ俟ツノミニシテ而モ川表水位ノ異常ノ上昇ニ際シテハ全ク弁ノ開閉ヲナシ能ハザルノ現狀ニアルヲ以テ出水時ニ於テハ常ニ運河水位ノ低下ヲ來タスノミナラズ其變化時ニ急ニシテ運河沿堤脚ノ崩落ヲ誘致スル虞アルノミナラズ運河使用上ニモ甚シキ支障ヲ生ズルヲ以テ出水時ニ於ケル獨立給水設備ヲ設ケ六軒屋洗堰ノ運用ト相俟テテ運河水位ノ緩和ヲ計ルコトトセリ。

樋門ハ毛馬閘門下流凡百十米ノ左岸堤防下ニ新設スルモノトス、給水能力ハ長柄標二・七米ニ於テ閘門ヲ閉鎖スルモノトシ一本松標二・五米ヲ保ツモノトセバ運河流量毎秒一二立米ヲ要スベキヲ以テ是ノ場合本工ニヨリ八立米ヲ給水スルモノトシ殘餘ハ從來ノ通り閘門排水弁ニ依ラントス、本流水位更ニ上昇スルニ於テハ本工ノミニテ優ニ所要量ヲ給水シ得ベシ。

構造ハ鐵筋混凝土雙函渠トシ各内法高一・二米、巾一・五米トシ中間ニ竇塔ヲ設ケテ弁ノ開閉ニ備ヘ吐口ニハ之ニ直角ニ長八・六米ノ衝壁ヲ設ケテ水勢ヲ減殺シ徑間二・五米五連ノ水通ニヨリ運河ニ導入シ舟航ニ支障ナカラシム。

基礎ハ樋門入口、吐口、又竇塔ニ鐵矢板長六米ノモノヲ打チ込ミテ之ヲ圍ミ内部ニ長七米ノ基礎松杭ヲ打チ込ミ厚サ一・五米ノ鐵筋混凝土床版ヲ布設スルモノトス、樋体基礎ハ周圍ヲ木製矢板ニテ圍ミ内部ニ松杭ヲ打込ムモノトセリ、基礎底面ノ高サハ樋口O.P.上・一・四米、吐全一・一米ニシテ衝壁前面ヲO.P.〇米トス。

竇塔下部ニハ各水通ニ一枚ノ鐵製引上扉ヲ設ケ竇塔頂部ニ設置ノ捲上機ニ依リ隨時人力ニ依リ開閉シ得ル装置トセリ。

本工ハ昭和四年十月着工、川表、川裏締切工ヲ開始ス川表ニ鐵矢板ヲ川裏ハ普通矢板締切トセリ、次デ弁体ノ掘鑿ヲ進メ基礎杭ノ打込ヲ初メタルニ基礎地質ハ良好ノ砂利層淺在シ松杭ハ五米乃至、三・六米末口一八糧ニテ充分ナルヲ確メ晝夜工ヲ續ケ昭和四年十二月末終了引續キ樋体ノ築造ヲ急ギ昭和五年三月末ニハ堤体ノ埋戻殆ド完了セリ、次デ川表、川裏護岸ノ工事ヲ續行シ六月殆ド竣成セリ。

工費凡六萬八千餘圓ヲ要シタリ。

高瀬樋門

疏水合流点以下ノ現高瀬川ハ將來築堤ノ進工ト共ニ締切ラルルヲ以テ締切ケ所下手伏見市景勝宇治部地先ニ新水門ヲ築造シ現川ニ給水スルモノトス、構造ハ鐵筋混凝土函渠ニシテ内法〇・七五米正方形断面ニシテ延長二一・二米ナリ。

本工ハ昭和三年十二月着工、昭和四年度竣功セリ、工費六千圓ナリ。

六、附帶工事

附帶工事ハ用悪水樋門ノ繼足又ハ改築、用悪水路ノ付換、道路及橋梁並ニ軌道橋ノ昂上等ニシテ昭和四年度末迄ニ施工ノケ所五十八ヶ所ニ及ビ其支出總額二百十九萬八千餘圓ニシテ内國庫補助額百四十萬餘圓ナリ。

是等附帶工事ハ治水上重要ナル工作物タルヲ以テ直轄施工ノ方針ヲ採リ僅カニ京阪電鐵軌道並橋梁工事京都市疏水放水路工事ヲ各管理者ヲシテ施工セシメタルノミナリ。

昭和五年度ニ入りテ尙工事中ニ屬スルモノハ京都市疏水放水路工事、淀川左岸統一用水路工事、伏見市道橋等ニシテ是等モ殆ド竣成セルモノニシテ附帶工事ハ大体ニ於テ竣了セリト云フベシ。

今其主要ナルモノ二三ニ就キ其經過ヲ記述スレバ次ノ如シ

京都市疏水放水路工事

本工事ハ伏見防水工事ノ一部ヲナスモノニシテ出水時宇治川筋、水門、閘門ヲ閉鎖スルト共ニ疏水ヲ新高瀨川ニ放流セントスルモノニシテ、伏見市西住吉町津知橋下流凡六〇米ノ地点ヲ放水路ノ起点トシ現水路ヨリ分岐シ西方新高瀨川合流ニ至ル延長凡九〇〇米ノ放水路ヲ開鑿スルト共ニ右分岐点下流凡六十米ノ現水路ニ制水門ヲ新設シテ出水時之ヲ閉鎖スルモノトス。

放水路ノ勾配ハ凡二千分ノ一ニシテ分岐点ニ於ケル底高ヲ疏水平水位ニ準ジ〇.P.一三・八米トシ高瀨川合流点ニ於テ全一三・三米トセリ、放水路敷巾ハ一三・六米ニシテ水深一・五米ニ於テ其流量二二立方米ヲ放流シ得ルノ斷面トシ京都市電車橋以東ハ市街地ニシテ人家稠密セルヲ以テ堤防天端ニ至ル迄五分法ノ間知練石積トシ其他ノ區間ハ直高一・八米ノ練石積トシ上部ヲ二割法ノ土堤トセリ。

堤防馬踏ノ巾ハ前者ニ於テ一・八米、後者ニ於テ三・六米トス。

橋梁ハ電車路一橋、公道橋六橋ニシテ鐵桁鐵筋混凝土橋トセリ。

制水門ハ徑間四・二五米三連ヨリナリ鐵製ストーニー扉ヲ有シ人力ニ依リ開閉シ得ルモノトセリ。

本工事ハ京都市ノ施工ニカ、リ大正十二年度着工シ大正十四年度ニ於テ制水門ヲ殘シ其他ノ諸工事ヲ完了セリ、工費豫算五十六萬圓ニシテ内國庫補助三十七萬三千圓トス。

制水門工事ハ高瀨川開鑿完了ヲ俟テ之ニ通水シツツ施工スルモノトシ昭和五年ニ於テ完了ノ見込ナリ
淀川左岸統一用水路工事

淀川左岸枚方町以下大阪市ニ至ル淀川堤防下ニ存在セル上ノ庄外七ヶ所ノ用水樋ハ其構造脆弱ニシテ彎折龜裂ヲ生ゼザルモノナク多年淀川治水ノ癩腫トシテ憂慮セラレ之ガ撤廢、並ニ統一ノ急ヲ叫ブコト久シ而モ其關係區域一市二郡十九ヶ町村ニ及ビ反別四千七百八十餘町歩ニ亘ルヲ以テ利害錯綜容易ニ實現シ能ハザリシモ比年引水ノ困難ハ遂ニ合同ノ機運ヲ醸成シ昭和四年八月新ニ淀川用水樋普通水利組合ノ

設立ヲ見ルニ至リ工費豫算八十五萬圓ヲ以テ全年十月之ガ工事ヲ起工スルニ至リ、内務省ニ委託ス内國庫補助四十萬圓ナリ。

計畫ノ大要ヲ述ブレバ枚方町伊加賀上ノ庄樋跡ニ新合同樋門ヲ築設シ是レヨリ舊樋並水路ニ至ル幹線水路一ノ一ノ開鑿シ在來水路ニ配水スルモノトス、餘水ハ大阪市江野町地先ニ流末排水路七百五十餘米ヲ開鑿シ大阪市城北運河ニ放流スルモノトセリ。

計畫取水量ハ每秒八・三立米トシ將來既往最渴水位以下四〇糎ニ及ブノ水位低下ニ際シテモ優ニ取水ニ支障ナカラシムルノ計畫トセリ。

合同樋門ハ三連ノ鐵筋混凝土函渠ヨリナリ各内法高一・五米、巾一・八米ニシテ長サ三十二米四ナリ。

樋口底高ハO.P.五・二五米ニシテ吐口全五・一五米ナリ。

樋口基礎ハ四圍ニラルゼン型長六米ノ鐵矢板ヲ打込ミ内部ニ松丸太長七米末口一八糎ノモノヲ打込ミ上部ニ鐵筋混凝土版厚一・二米ヲ布設セリ。

樋体基礎ハ長七米末口一八糎ノ松杭ヲ使用シ實施ニ當リ尙軟弱ナリシ中央區間ニ對シテハ長一一米末口一八糎ノ米松丸太ヲ打込ミ所期ノ載荷力ヲ得セシメタリ、尙地質豫期ニ反シ不良ナリシヲ以テ基礎版ノ厚ヲ増シ更ニ側壁下部ニ縱鐵筋ヲ增加挿入シ樋体ノ彎曲ニ備ヘタリ。

樋口ニハ三枚ノ鐵扉ヲ備ヘ人力ニヨリ容易ニ開閉シ得ルノ構造トセリ。

幹線水路ハ友呂岐村木屋地先二十個用水路迄ハ敷巾九米ニシテ以下順次之ヲ縮少シ終端ニ於テ一・八米ニ變化セリ、勾配ハ在來水路トノ連絡上四五百分、五千分、三千七百五十分等トセリ。

主要水路ノ分岐点ニ數多ノ分水門ヲ設置スルノ外五ヶ所ニ制水門ヲ設ケテ水ノ調節其他ニ充テタリ、幹線水路ニ架スベキ橋梁ハ五十餘橋ニ及ビ主トシテ木造桁橋ヲ使用ス、其他揚水唧筒、護岸、水抜、床固等工事多岐ニ亘レリ。

本工事ハ二ヶ年ノ繼續工事トシテ計畫セラレタルモ八樋管ノ現状ハ一日モ速ニ撤去スルノ急務ナルヲ痛感セシメタルヲ以テ舊樋ノ撤廢ト新水路ノ開鑿トヲ併行急施シテ凡六ヶ月ニ完成セシメ次年灌溉ニ支障ナカラシムルノ方針ヲ定メ昭和四年十一月準備ニ着手シ用地ハ工事承諾ノ便法ヲ用ヒ爾來日夜工ヲ急ギ幸ニシテ昭和四年四月廿日初メテ新水路ニ通水スルコトヲ得タリ。

爾來殘工事ノ整理ヲ行ヒ五月工事ノ竣功ヲ見目下用地買收事務ヲ殘スノミナリ。

附帶工事費

直營附帶工事費

大阪府管内

名稱	位置	着手年月	形状	尺寸	断面	構造	竣功額	國庫補助額
新川樋門	大阪府三島郡	大正六年十月	函形	三、七五	幅二、三三 高二、八八	鐵筋混凝土 石及煉瓦	二四、六四、八七五	六、四八、八五五
三ッ樋	大阪府三島郡	大正九年十月	〃	三、四一	幅一、六九 高一、三三	鐵筋混凝土 及煉瓦	三〇、〇三、〇八四	二〇、〇三、一九四
坂ノ樋	大阪府北河内郡	大正十年一月	〃	〃	〃	鐵筋混凝土 及石	三三、四三、〇一一	一五、八四、八五一
三ッ樋 路ノ樋 除水	大阪府三島郡	大正十年二月	〃	〃	〃	鐵筋混凝土 及石	八、〇〇、〇〇〇	五、三三、〇〇〇
大塚水	大阪府三島郡	大正十年三月	〃	〃	〃	鐵筋混凝土 及石	九、〇〇、〇〇〇	六、〇〇、〇〇〇
河原用水	大阪府三島郡	大正十年三月	〃	〃	〃	鐵筋混凝土 及石	三三、三三、三三五	一一、二四、九六五
大樋及新樋	大阪府三島郡	大正十年三月	〃	〃	〃	鐵筋混凝土 及石	二九、七三、三六五	七、七二、三三三
六ノ軒	大阪府北河内郡	大正十年三月	〃	〃	〃	鐵筋混凝土 及石	五、九三、七二七	三、四、五九八、五八七
西ノ口	大阪府北河内郡	大正十年三月	〃	〃	〃	鐵筋混凝土 及石	二五、六七、六六四	一五、九五、一七四
岸ノ樋 對馬野 所繼足	大阪府北河内郡	大正十年三月	〃	〃	〃	鐵筋混凝土 及石	三三、三九、一五三	一五、〇〇、一三三

名稱	位置	着手年月	形状	尺寸	断面	構造	竣功額	國庫補助額
岸ノ樋	大阪府北河内郡	大正十年三月	函形	三、七五	幅一、三三 高〇、七七	鐵筋混凝土 及石	八、九三、六三三	五、七九、六三三
對馬野	大阪府北河内郡	大正十年三月	〃	〃	〃	鐵筋混凝土 及石	七、〇一、五五一	四、六五、八五一
中芝	大阪府北河内郡	大正十年三月	〃	〃	〃	鐵筋混凝土 及石	五、九三、六六〇	三、四、七九、七〇〇
三ノ線	大阪府北河内郡	大正十年三月	〃	〃	〃	鐵筋混凝土 及石	八、九三、六三三	五、七九、六三三
安居	大阪府北河内郡	大正十年三月	〃	〃	〃	鐵筋混凝土 及石	七、〇一、五五一	四、六五、八五一
三ノ牧用水	大阪府三島郡	大正十年三月	〃	〃	〃	鐵筋混凝土 及石	五、九三、六六〇	三、四、七九、七〇〇
樋上	大阪府北河内郡	大正十年三月	〃	〃	〃	鐵筋混凝土 及石	八、九三、六三三	五、七九、六三三
江ノ口	大阪府三島郡	大正十年三月	〃	〃	〃	鐵筋混凝土 及石	五、九三、六六〇	三、四、七九、七〇〇
大門	大阪府北河内郡	大正十年三月	〃	〃	〃	鐵筋混凝土 及石	八、九三、六三三	五、七九、六三三
元開	大阪府三島郡	大正十年三月	〃	〃	〃	鐵筋混凝土 及石	七、〇一、五五一	四、六五、八五一
今戸用 唧筒 移轉	大阪府三島郡	大正十年三月	〃	〃	〃	鐵筋混凝土 及石	五、九三、六六〇	三、四、七九、七〇〇
土井樋	大阪府三島郡	大正十年三月	〃	〃	〃	鐵筋混凝土 及石	八、九三、六三三	五、七九、六三三
用排水 唧筒 改造	大阪府北河内郡	大正十年三月	〃	〃	〃	鐵筋混凝土 及石	七、〇一、五五一	四、六五、八五一
實正樋	大阪府三島郡	大正十年三月	〃	〃	〃	鐵筋混凝土 及石	五、九三、六六〇	三、四、七九、七〇〇
五久樋	大阪府三島郡	大正十年三月	〃	〃	〃	鐵筋混凝土 及石	八、九三、六三三	五、七九、六三三

神崎川一少屋 樋開改築	大阪府三島郡 味生村	昭和三年七月	鐵管 口徑二、七七耗	鐵筋混凝土 切石及煉瓦	五、九三、三七六	三、三〇、九七六
磯島排水樋管	大阪府北河内郡 牧野村	昭和三年三月	鐵管 口徑三〇〇耗	鐵筋混凝土	二、六、九三三	一〇、九九、二九二
高濱樋補修	大阪府三島郡 島本村	昭和三年三月	鐵管 口徑三〇〇耗	鐵筋混凝土	五、八九、九六六	三、五六一、九三三
冠用水補修	大阪府三島郡 大冠村	昭和三年三月	鐵管 口徑三〇〇耗	鐵筋混凝土	三、六六、一三〇	二、四三、三五〇
淀川左岸統一樋 管及用水路工	自大阪府枚方町 至大阪市江野町	昭和三十年 工事	鐵管 口徑三〇〇耗	鐵筋混凝土 米乃至一、八米	單度末功程 三三、〇四、七二〇	二、九八、八九三、三〇〇
新種改築	大阪府北河内郡 牧野村	昭和四年一月	鐵管 口徑三〇〇耗	鐵筋混凝土	五、四六、一三〇	三、四九、七三〇
國道二號路線道 路改修	大阪府北河内郡 枚方町外三ヶ村	昭和三年五月	鐵管 口徑三〇〇耗	鐵筋混凝土	六、七五、一六〇	一、七五、五七、一六〇
計					一、〇〇、七九二、一七七	六、八六、九七、五〇〇 四、八四、〇〇〇

京都府管内

八幡惡水路 付替	大阪府北河内郡 樟葉村	大正九年三月	鐵管 口徑三〇〇耗	鐵筋混凝土	二、七、三三、五九〇	一、八、四九、〇〇〇
葭島新田 用水	京都府紀伊郡 向島村	大正十年八月	鐵管 口徑三〇〇耗	鐵筋混凝土	三、四四、五八一	五、五四、五八一
林ノ元樋	京都府綴喜郡 八幡町	大正十年五月	鐵管 口徑三〇〇耗	鐵筋混凝土	一、八、〇四、七〇〇	二、三三、九九〇

美豆用水唧筒鐵 管繼足	京都府綴喜郡 美豆村	昭和三年三月	鐵管 口徑六〇耗	鐵筋混凝土	一、九〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇
大池樋門及 樋管繼足	京都府綴喜郡 八幡町	昭和三年五月	鐵管 口徑六〇耗	鐵筋混凝土 石及煉瓦	三、七六、六五五	二、五七、七〇五
大山崎用惡水工	京都府乙訓郡 大山崎村	昭和四年三月	鐵管 口徑六〇耗	鐵筋混凝土	五、六六、〇四八	三、〇一、八〇八
大山崎樋門			鐵管 口徑六〇耗	鐵筋混凝土	三、八三、一八三	三、八三、一八三
大山崎用惡 水唧筒			鐵管 口徑六〇耗	鐵筋混凝土	六、六三、二二二	六、六三、二二二
制水門			鐵管 口徑六〇耗	鐵筋混凝土	六、六三、二二二	六、六三、二二二
付惡水路 替			鐵管 口徑六〇耗	鐵筋混凝土	五、五五、	五、五五、
下三栖樋管及 水路付替	京都府紀伊郡 橫大路村	昭和三年七月	鐵管 口徑六〇耗	鐵筋混凝土	三、三、	八、八九、三三三
下鳥羽樋管及 水路付替	京都府見都 町	昭和三年七月	鐵管 口徑六〇耗	鐵筋混凝土	〇、〇、	五、八三、三九五
加賀屋敷下水 管繼足埋設替下水 溝下水樹	京都府紀伊郡 深草町	昭和三年七月	鐵管 口徑六〇耗	鐵筋混凝土	五、八三、三九五	三、八九、四九五
八幡樋門補修	京都府綴喜郡 八幡町	昭和三年三月	鐵管 口徑六〇耗	鐵筋混凝土	五、九九、五六八	三、九九、五六八
伏見町用惡水工	京都府綴喜郡 八幡町	昭和三年三月	鐵管 口徑六〇耗	鐵筋混凝土	八、九九、二八〇	五、九九、二八〇
景勝惡水樋管及 水路付替	京都府紀伊郡 伏見町	昭和四年一月	鐵管 口徑六〇耗	鐵筋混凝土	七、七三、一九八	四、七七、九五六

管理者施工々事

大阪府管内

名	稱	位	置	着手年月	竣工年月	形	狀	長	寸	斷	法	構	造	竣	功	額	國	庫	補	助	額
---	---	---	---	------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

狩賀橋 外一橋梁補修	狩賀橋	京都府紀伊郡	照和四年二月	照和四年四月	扛上及繼足	五、一	幅一、三	鐵桁	八、一〇、〇〇〇	五、〇〇〇	三、〇〇〇	〇	三、〇〇〇
深草橋架替	深草橋架替	京都府紀伊郡	照和三年七月	照和三年九月	鐵桁 鐵筋混凝土	五、八	幅二、三	鐵桁 鐵筋混凝土	八、一〇、〇〇〇	五、〇〇〇	〇	三、〇〇〇	
及取付道架	及取付道架	京都府紀伊郡	照和三年七月	照和三年九月	鐵筋混凝土	二、〇	幅五、五	鐵筋混凝土	九、一三、〇七〇	二、五〇〇	〇	二、五〇〇	
高瀬橋改築	高瀬橋改築	京都府紀伊郡	照和三年七月	照和三年九月	鐵筋混凝土	三、〇	幅五、五	鐵筋混凝土	九、一三、〇七〇	二、五〇〇	〇	二、五〇〇	
三雲橋架設	三雲橋架設	京都府見都	照和四年七月	照和四年九月	鐵筋混凝土	三、六	幅三、六	鐵筋混凝土	九、三三、〇〇七	五、六九七	七、九七六	〇	
用人橋架設	用人橋架設	京都府見都	照和四年七月	照和四年九月	鐵筋混凝土	四、〇	幅一、八	鐵筋混凝土	七、九七、〇〇〇	七、九七、〇〇〇	〇	〇	
八幡町工作物	八幡町工作物	京都府見都	照和四年七月	照和四年九月	鐵筋混凝土	四、〇	幅一、八	鐵筋混凝土	七、九七、〇〇〇	七、九七、〇〇〇	〇	〇	
除却補償	除却補償	京都府見都	照和四年七月	照和四年九月	鐵筋混凝土	四、〇	幅一、八	鐵筋混凝土	七、九七、〇〇〇	七、九七、〇〇〇	〇	〇	
計									二九、八三、〇九二	一八、六、〇〇〇	〇	一八、六、〇〇〇	

伏見樋管及	伏見樋管及	京都府紀伊郡	照和四年五月	照和四年五月	水路延長	九、八	高幅〇、六	鐵筋混凝土	五、二七、二〇〇	三、四、三、〇〇〇	〇	三、四、三、〇〇〇
景勝樋管	景勝樋管	京都府紀伊郡	照和四年五月	照和四年五月	水路延長	九、三	高幅〇、六	鐵筋混凝土	五、二七、二〇〇	三、四、三、〇〇〇	〇	三、四、三、〇〇〇
水越樋管	水越樋管	京都府紀伊郡	照和四年五月	照和四年五月	水路延長	九、三	高幅〇、六	鐵筋混凝土	五、二七、二〇〇	三、四、三、〇〇〇	〇	三、四、三、〇〇〇
竹田村用惡水工	竹田村用惡水工	京都府紀伊郡	照和四年五月	照和四年五月	水路延長	九、三	高幅〇、六	鐵筋混凝土	五、二七、二〇〇	三、四、三、〇〇〇	〇	三、四、三、〇〇〇
醍醐田樋管水	醍醐田樋管水	京都府紀伊郡	照和四年五月	照和四年五月	水路延長	九、三	高幅〇、六	鐵筋混凝土	五、二七、二〇〇	三、四、三、〇〇〇	〇	三、四、三、〇〇〇
路付替其他	路付替其他	京都府紀伊郡	照和四年五月	照和四年五月	水路延長	九、三	高幅〇、六	鐵筋混凝土	五、二七、二〇〇	三、四、三、〇〇〇	〇	三、四、三、〇〇〇
狩賀惡水樋管	狩賀惡水樋管	京都府紀伊郡	照和四年五月	照和四年五月	水路延長	九、三	高幅〇、六	鐵筋混凝土	五、二七、二〇〇	三、四、三、〇〇〇	〇	三、四、三、〇〇〇
狩賀下水溝	狩賀下水溝	京都府紀伊郡	照和四年五月	照和四年五月	水路延長	九、三	高幅〇、六	鐵筋混凝土	五、二七、二〇〇	三、四、三、〇〇〇	〇	三、四、三、〇〇〇
竹田用水路	竹田用水路	京都府紀伊郡	照和四年五月	照和四年五月	水路延長	九、三	高幅〇、六	鐵筋混凝土	五、二七、二〇〇	三、四、三、〇〇〇	〇	三、四、三、〇〇〇
竹田用水路	竹田用水路	京都府紀伊郡	照和四年五月	照和四年五月	水路延長	九、三	高幅〇、六	鐵筋混凝土	五、二七、二〇〇	三、四、三、〇〇〇	〇	三、四、三、〇〇〇
下鳥羽用水樋管	下鳥羽用水樋管	京都府紀伊郡	照和四年五月	照和四年五月	水路延長	九、三	高幅〇、六	鐵筋混凝土	五、二七、二〇〇	三、四、三、〇〇〇	〇	三、四、三、〇〇〇
除却	除却	京都府紀伊郡	照和四年五月	照和四年五月	水路延長	九、三	高幅〇、六	鐵筋混凝土	五、二七、二〇〇	三、四、三、〇〇〇	〇	三、四、三、〇〇〇
三酒橋架設	三酒橋架設	京都府紀伊郡	照和四年五月	照和四年五月	水路延長	九、三	高幅〇、六	鐵筋混凝土	五、二七、二〇〇	三、四、三、〇〇〇	〇	三、四、三、〇〇〇
繩手橋架設	繩手橋架設	京都府紀伊郡	照和四年五月	照和四年五月	水路延長	九、三	高幅〇、六	鐵筋混凝土	五、二七、二〇〇	三、四、三、〇〇〇	〇	三、四、三、〇〇〇
計									三、〇〇、〇〇〇	三、〇〇、〇〇〇	〇	三、〇〇、〇〇〇

附帶工事費	船舶及機械費	測量費	營繕費	雜費	亡失毀損	共濟組合給與金	合計
筒所	竣功	未竣功	四	五			
一、四〇、〇三三、五四	二、四三、二〇三、一〇三	五七、〇三三、六九三	一七、七四〇、九三	一、二四九、三九五、二三	一、〇〇五、三五七	五〇、一三九、六五〇	一三、九四〇、七五八、八四五

八、統計

起工以來昭和四年度ニ至ル各種統計ヲ摘記スレバ左ノ如シ

築堤工事工種別工程表 (自大正七年至昭和四年度)

工種別	單位	數量	金額	平均單價	摘要
他工事ヨリ利用土	立米	四、八四六、五九七	一、五五、九四〇、三五、八	〇、三八四	
土運搬	"	三、九七二、九九五	四、五三、三〇八、四八		
土量計		八、八一九、五九二	六、〇九、二四八、〇三		

築立	芝付	採取	雜費	合計	總土量對土運搬以外工費	全築立芝付工費	完成延長
立米	立米	立米	立米	立米	立米	立米	米
八、八一九、五九二	一、六五七、五四一	一、五八、二七七、四	二、四一、九八七、四四六	二、五七二、三五七、五五三、八	八、八一九、五九二	一〇、四六、四七三、八	一〇九、四一九、二
四、五三、三〇八、四八	一、九三、九〇三、五〇〇	一、五八、二七七、四	六、四六、二二〇、四八	六、四六、二二〇、四八			
〇、〇五二	〇、〇一七						

護岸水制工事工種別工程表 (自大正八年至昭和四年度)

工種別	單位	數量	金額	平均單價	摘要
表石張	平米	二七、八五六、一	六、七八、四九三、〇〇六	五、七五七	杭打ヲ含ム
裏石張	"	一、九、六八〇、〇	一、四三、八六八、〇四三	七、二〇八	"
間知石積	"	一、五八六、〇	一四、九五五、八八四	九、四三〇	練積一部モ含ム
割石積	"	二、三七四、〇	三、三九九、九七八	九、四一四	杭打ヲ含ム
植石コンクリート	"	三、三五三、〇	一五、四四八、六七二	四、六〇七	
石詰(護岸)	"	九、八九九、〇	八、〇三七、三六一	〇、八三	

鐵線蛇籠	米	二、八四、八	三、六四、九	二、四六八	護岸及水制
鐵筋混凝土矢板	米	一、二三、二四	八、四三、六九五	七、二七	矢板長四、五米—五、〇米
鐵矢板	米	二二、五	三三、八三、二〇	一五九、四〇五	長七、三米ラルゼン式及テルル
杭打柵捨石	米	一、六九八、〇	八、八四五、三二	五、二〇九	—ジユ式
捨護岸石	米	一〇、二四五、二	六九、四二九、八三六	六、七七七	一米ニ付一、〇立米—八、三立米
假護岸	米	三、五〇〇、〇	二六、二九七、〇一	七、四九一	一般ノ假護岸
杭打捨石	米	一、一三〇、〇	二二、七六五、二五	二〇、一四六	
沈床	平米	一八二、〇四一、〇	四〇六、八九三、六一	二、二三五	護岸及水制
單層(水制)	米	二七、〇〇七、五	三九、八八二、四七三	一、四七七	
上層()	米	一、四一八、〇	五、〇五八、八〇四	三、五六八	
杭打石詰()	米	三、四九九、〇	一六、七三九、八九九	四、八五二	
床固植石混凝土()	米	一、三〇〇、〇	一三、九八一、二五〇	一〇、七五五	床固コンクリート補修
敷粗朶石詰()	米	四一七、五	六五四、九二四	一、五六九	
石詰()	米	五、〇六〇、〇	一一、九三六、〇六五	二、三五九	
計			一、六五七、五九二、七八九		

工種別工費及修理費表

工種	單位	自大正七年 至昭和四年 年度			修理費	毀損費	單位		摘要
		數	工費	累計			工費	修理費	
本工	立米	五八八、八四七、〇	一九六、〇七九、四四一	五〇、二二六、五二	三、二六〇、六三三	〇、三五七	〇、〇九七	バケット式及ボンプ式各一艘、ガット式二艘	
竣	"	● 一五、六四、〇	● 三、三五二、一四	一八七、九二六、七二、五	二二、八二九、三三	〇、二七〇	〇、〇七九	二百噸掘鑿機三臺 廿噸機關車七臺	
人力掘鑿二十噸機關車工事	"	三、九四八、五八二、〇	一、〇六七、〇二四、九四七	二二、八七二、九九七、五	二二、三六〇、五九	〇、四二七	〇、〇七〇		
人力掘鑿五噸機關車工事	"	六三三、〇八五、〇	二六一、九二〇、五四一	二二、八七二、九九七、五	二二、三六〇、五九	〇、四二七	〇、〇七〇		
人力掘鑿三噸ガソリン機關車工事	"	● 一九、五三九、〇	● 八九、七三九、四一三	一五三、七四三、五四五	九、〇八七、二九七	〇、四四五	〇、〇八二	五噸機關車五臺	
人力掘鑿人力運搬工事	"	▲ 八、九五二、〇	▲ 四、三六七、一五	一五三、七四三、五四五	九、〇八七、二九七	〇、四四五	〇、〇八二		
事	"	一、八六四、四七六、〇	七七七、四五〇、八七六	二九、〇〇三、三八〇	一、三六二、一八	〇、四八四	〇、二二〇	三噸ガソリン機關車三臺	
小	"	● 九、八四八、〇	● 二七、四〇三、七九七	二九、〇〇三、三八〇	一、三六二、一八	〇、四八四	〇、二二〇		
築	"	二、九二一、九一六、〇	一、三六六、四四三、三五	二二、三〇〇、九二八	一四、一九三、六二七、二	〇、四五一	〇、〇四三		
全	"	八、八一九、五九二、〇	七六六、六一〇、七二六	五五三、九八二、二五	一七三、〇七六、三四、一	〇、三七四	〇、〇七一		
護	米	三六、七九〇、二	一、五五七、三二〇、二六	四、〇一五	一九、一五六	四、〇一五	一九、一五六		
水	個所	九、四三六、〇	一八〇、七五五、四九三	七二二、九三四、〇八	三、二三〇、五五五、八〇二	六、九六四、六二七、四六	一七二、一四七、二七九、五		
特	個所	九、	七二二、九三四、〇八	三、二三〇、五五五、八〇二	六、九六四、六二七、四六	一七二、一四七、二七九、五	一、一〇三、八二七		
小	計	合	計	計	計	計	計		
生	立米	探石工	天ヶ瀬	四、八三六、〇	一七二、一四七、二七九、五	一三三、八二五、六三八、五	一三、七四一、五五四三		
産	"	探石工	東大寺	六五、四三三、〇	一九、一〇三、八二七	三三五、〇七六、六四五	一五、八八一、三四七		
工	本	鐵筋コンクリート桁製作工		五、三三〇、	三三五、〇七六、六四五	一三、七四一、五五四三	三、五九一		
附	個所	樋管及水路工事		四、	七八〇、四五二、六六二	八五五、二七二、七四	四、〇一九		
工	"	道路及橋梁工事		六、	七四、八八六、二二	八五五、二七二、七四	二、〇四六		
雜	計	小		四、	二、三〇七、九五〇	三七四、二五二、〇八、五	三、五九一		
工	費	費 (事務所)		二、	三七六、九五二、〇八、五	四、	三、五九一		
小	盛土	天ヶ瀬探石場跡砂防		四、	八、五二一、九五九、八七三、五	六九一、三七三、七五八	一八八、八九九、八一、二		
總	計	小		八、	八、五二一、九五九、八七三、五	六九一、三七三、七五八	一八八、八九九、八一、二		

摘要

一、提供勞力及材料費ヲ含ム

一、● 附帶工事ニシテ單位當リハ各工費ヲ合算シテ算出シタルモノナリ

一、● 掘鑿機三臺 廿噸機關車七臺

一、● 掘鑿機五臺

一、● 掘鑿機三臺 廿噸機關車七臺

浚渫工事工種別工程表

工種別	自大正七年 至昭和四年 度累計		摘要
	數量	金額	
バケット式浚渫船使用	二四五、九七、〇	九三、三〇三三九	第五浚渫船六十立米掘
ガット式 ブルストマン使用	七二、三六、〇	三二、六二八〇九	第二ブルストマン
ボムプ式 浚渫船使用	五、六五、〇	一九、八八四五二	第八浚渫船三十立米掘
全上	一二四、八三、〇	三六、五五二〇二	全上
ガット式 ブルストマン使用	一五七、〇	二六〇、九六六	第二ブルストマン
バケット式 浚渫船使用	二九、〇七四、〇	二、四六八四三四	第五浚渫船
ガット式 ブルストマン使用	全上	二、四〇〇四五〇	第一、第二ブルストマン
短梯掘鑿機使用工事	三、九四、二〇六、〇	一、〇七〇、三七七六一	
二十噸機關車運搬工事	六三、〇八五、〇	二六一、九〇五四一	
五噸機關車運搬工事	一、九二、九六七、〇	八七九、三二五〇四	

備員及人夫出役員數賃金統計表

年 區 別	備 員		男 人 夫		女 人 夫		計	
	員 數	金 額	員 數	金 額	員 數	金 額	員 數	金 額
大正七年度	二、四三	二、七三六	一、四〇六	一、五八五	二、三三六	一、二九八	一、九〇五	一、九八六
大正八年度	一、七五五	二、〇四九	八三六	一、〇五九	一、三三六	九、〇〇〇	一、四七六	一、六〇九
大正九年度	二、八八五	三、〇九三	一、四三三	一、六三三	一、四九九	一、二〇〇	一、九一八	二、〇七三
大正十年度	三、五二八	三、九三九	一、七五五	二、〇六三	一、四九九	一、二〇〇	二、九一八	三、〇七三
大正十一年度	四、〇三二	四、三七一	二、〇〇七	二、二五七	一、八七三	一、五五九	三、〇七三	三、二二八
大正十二年度	四、八二五	五、〇七三	二、四九七	二、七〇〇	二、六三三	二、七三三	三、〇七三	三、二二八
大正十三年度	五、六四五	六、〇四七	三、四〇六	三、五八三	三、〇四〇	三、一四〇	三、〇七三	三、二二八
大正十四年度	五、七九三	六、〇八七	三、九六六	四、一三三	三、〇四〇	三、一四〇	三、〇七三	三、二二八
大正十五年度	三、五九七	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
昭和元年度	三、七〇三	三、九三三	二、七〇三	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
昭和二年度	三、五五三	三、九三三	二、七〇三	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
昭和三年度	三、五五三	三、九三三	二、七〇三	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
昭和四年度	二、七九四	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
平均一人當り	四三、〇六元	一、〇〇〇、二四七元	二、七〇三元	五、〇九九元	三、〇〇〇元	一、〇〇〇元	三、〇〇〇元	一、〇〇〇元

昭和五年三月末日迄ノ死傷人夫統計

死傷人員	療養日數	療治料	扶助料其他	計 金	摘 要
四三	一七、一六七	三、〇〇八、五五〇	二四、一三〇、五七〇	五、二六九、三〇〇	死亡者 九 不具癈失者 五

主要量水標最高水位摘録

位 置	名 稱	零 点 高	明治六年七月洪水	明治七年九月洪水	明治十年八月洪水	大正六年十月洪水	大正十年九月洪水	昭和五年八月洪水
琵琶湖	鳥居川	OP (十八五六一)	二、七二	三、七六	一、〇九	一、四三	一、〇八	〇、六四
宇治川	向島	二、八七	三、六七	三、六七	二、六一	三、七〇	三、四二	二、六六
淀川	廣瀬	九、七五	五、五二	五、四八	四、八〇	五、九一	五、五六	四、九〇
木津川	枚方	六、九七	五、〇〇	四、八五	四、七二	五、五八	五、四四	四、九八
"	上狛	三、〇、九四	四、八五	四、八五	四、三六	五、三三	四、三〇	三、四七
"	八幡	二、一三三	二、二七	四、一五	四、五五	五、九二	五、二〇	四、五九
桂川	天龍寺	三、四、三六	二、二七	四、一五	四、一五	二、三六	二、九四	二、六六
"	羽束師	二、一、七	三、九四	三、九四	五、六一	四、六二	五、二四	四、七九

備考 大正六年十月ノ洪水ハ木津川ニ於テ加茂、上狛ニテ宇治川ニ於テ三栖ニテ桂川ハ松ノ木橋圍

明寺ニテ、淀川ハ大塚ニテ破堤セルヲ以テ廣瀨、枚方及八幡標ハ低位ヲ示ス
 明治四十年八月ノ洪水ハ桂川右岸堤決潰ニ付羽束師標ハ低位ヲ示ス

用地買収

大正七年大阪府枚方町ニ土地收用事務所ヲ置キ買収用務ヲ處理セシム、土地買収ヲ要スベキ箇所ハ中洲並堤外民有地、堤防擴築用地ニシテ其主ナル箇所ハ伏見方面ニ於テハ伏見新堤敷地、高瀨川用地、橫大路、月貫、金井戸ノ中洲、向島、葎島新田裏腹付用地、等ニシテ三川合流方面ニ於テハ大山崎地内桂川右岸引堤用地及宇治桂合流点附近、水無瀨川口兩岸、木津川左岸京阪電鐵橋及御幸橋前後裏腹付用地等トス。

樟葉五領方面ハ樟葉地先堤防沿ノ宏大ナル堤外地、五領村地先上牧堤外並ニ中洲、及舟橋川兩岸裏腹付用地等トス。

牧野大冠方面ニ於テハ穗谷川尻ノ堤外地、並ニ堤防裏腹付用地トシテハ穗谷川兩岸、磯島、渚、檜尾川兩岸及大塚地先等トス。

枚方三ヶ牧、蹉跎方面ハ出口地先中洲及堤外地、腹付用地トシテハ芥川右岸、三島江、出口、枚方、天ノ川口兩岸トス。

鳥飼、九ヶ莊、庭窪方面ハ左岸太間仁和寺、佐太地先堤外地、右岸柱本、鳥飼地先堤外地等ニシテ裏腹

付用地トシテハ太間、點野、仁和寺、大日、八雲、和道、鳥飼上地先ヲ買収セリ。

左岸八雲右岸江口以下海ニ至ル區間ハ買収ヲ要シタル地域ナシ。

用地買収ハ大正十五年度殆ド完了セシヲ以テ全年收用事務所ヲ閉鎖シ工區事務所内ニ移ス。

起工以來昭和四年度迄ニ支出ノ總額ハ百七十六萬九千餘圓ニシテ其ノ内田畑三百三十一町餘反價格百四十萬一千餘圓、宅地工場敷地ハ二町八反餘價格八萬七千四百圓、雜種地六十八町餘反價格十一萬三千三百餘圓、地上物件移轉補償等十六萬八千餘圓ニシテ何レモ圓滿ニ各所有者ノ應諾ヲ得タルモノナリ。
 昭和四年度ニ於テ協議買収ノ見込ナキモノ一件ニ對シ土地收用法ヲ適用セリ。

土地買収及地上物件移轉費調 (昭和五年三月末)

種別	員數	金額
田畑	一、四六二 ^反 〇二一 ^五	九八一、二〇六 ^円 八〇
宅地	一、八四九 ^二 三六 ^五	四二〇、〇四四 ^円 七〇
山林	二八 ^五 三三 ^八 三	八七、四九六 ^円 四五〇
原野	四一六 ^六 一〇	五、九五六 ^円 三六〇
		四、四〇〇、九〇九 ^円 七〇

其他	計	家屋移轉料	其他物件	移轉料	諸補償金	合計
二四三、五二七	四、〇〇〇、二二三	三、八四一、二七五				
六二、九二二、四五〇	一、六〇一、六八二、八〇〇	九三、七〇五、〇六〇	七〇、三八六、七〇〇	四、一五六、二〇〇	一六八、一九三、五〇〇	一、七六九、八二〇、六三〇

改修ノ効果

堤防ノ擴張ハ決堤ノ患ヲ絶チ中洲ノ掘鑿ハ洪水ノ疏通ヲ快クシ三川合流ノ付換ハ宇治川ノ洪水ヲ輕減シ更ニ伏見ノ防水工事樋管ノ改築合同等今ヤ洪水除害ノ効ヲ完フシ頻年ノ脅威ヲ脱却シ得テ惠澤永ク後裔ニ布カン。

淀川改修増補工事竣功平面圖
全 縱斷面圖